

第16号

平成30年3月15日発行

南桜風

会報

鹿児島大学工学部同窓会



「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <http://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

会報の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。

*メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

メールアドレス変更のお知らせ（同窓会事務局のアドレスが変わりました。）

*新メールアドレス：kadai.eng.dousoukai@gmail.com

FAX：099(285)3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。（FAX番号と同様）

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいたきますとともに改めてお知らせいただければ幸甚に存じます。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「同窓会名簿の訂正・追記」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

住所不明者の調査協力をお願い

同窓会では平成25年度（平成26年3月）に同窓会名簿第15号を発行しました。

発行にあたりましては会員の皆様へハガキにてお知らせすると共に名簿の掲載内容のご意向を伺うなど個人情報の観点からも万全を期すよう鋭意努力しております。しかしながら今現在、連絡先の判明しない方が多数おられます。そこで、今回は会報の郵送とともに同期の方で住所が確認できていない方の氏名を明記しております。ご存知の方がいらっしゃいましたら同窓会事務局までお知らせください。

よろしく願いいたします。

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。すでに配布された名簿はシリアルナンバーによって管理されており、第三者が利用した場合はそのシリアルナンバーより所有していた卒業生が判明しますので、取り扱い等には十分に留意してください。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

E-MAIL : kadai.eng.dousoukai@gmail.com

同窓会ホームページ <http://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）

ごあいさつ

同窓会会長 松 永 洋 文	2
工 学 部 長 渡 邊 睦	3
O B より 太 田 芳 明	4

各学科・専攻の状況

機械工学科	5
電気電子工学科	5
建築学科	6
環境化学プロセス工学科	7
海洋土木工学科	8
情報生体システム工学科	9
化学生命工学科	10

在学生から

在 学 生 佐 野 翔 大	12
在 学 生 上 宇 都 瑞 季	13
在 学 生 奥 雅 貴	14
留 学 生 周 容 旭	15

工学部【岩崎国際交流基金】

および【研究交流基金】について	16
-----------------	----

工学部体育祭

教員の異動

教員・卒業生の受賞

部会だより

機友会	19
錦水会	24
AOI 会	30
南窓舎密会	35
しらなみ会	39

稲盛賞・学部長賞他

岸園賞

進路状況

工学部同窓会役員・

部会各支部役員名簿

本部だより

特別寄稿

工学部同窓会諸活動支援報告

工学部同窓会学生諸活動

助成金報告

会則

編集後記

広告掲載

同窓会名簿第16号延期のおしらせ

工学部同窓会では同窓会名簿を3年毎に作成しております。(但し、2005年に施行された個人情報保護法に則っての調査を有した為、第13号発行の際は前号から5年後となりました) 通例では次号は2016年の作成となるところですが、来る2020年に鹿児島大学工学部が創立75周年を迎えることから、同窓会名簿も周年事業に合わせての発行に向けて準備しております。

現在、会員の皆様の住所判明率は61%となっております。そこで、次号に向けましてはより判明率を高めるよう、情報の収集を行いたいと考えております。また、作成に関しましては個人調査にて掲載に関する意思の確認を行ったうえで、編集を行ってまいります。

会員の皆様方にはご理解を賜りたく、さらに同窓会名簿第16号の作成につきましては従来に増してのご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、その間は毎年会報の発行を計画しております。



つ・づ・く

工学部同窓会会長（海士52）
松永 洋文

鹿児島大学工学部同窓会会員の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

「南桜風第16号」をお届けします。

本部役員は任期3年の役割を終えます。よき活動ができたでしょうか？基金の活用により「岸園賞」表彰の充実を図ってまいりました。

工学部の学科間を横断的に共有する学生支援活動への助成に乗り出しました。

理工学研究科をはじめ活用されており、評価をいただいております。

通常同窓会運営への貴重な提案や活動の実施のほか、庶務幹事の曾我先生には活動全般と連合会での調整などを、編集幹事の木村先生には会報の編集・発行、座談会の企画などを、会計幹事の福原先生には経費の管理、監査対応などを、みなさん忙しい研究・教育の時間を割いて尽力いただきました。

さらに今後へつづく同窓会活動への新たな計画も提案します。

工学部同窓会事務局が落ち着きました。

学部建物の耐震補強工事で居場所を移りつづけた事務局が、ようやく落ち着く場所を得ました。建築学科1号館2階にあります。

皆様が気軽に訪れることができる空間になればと事務局の窪田さんと話しております。お越しく下さい、歓迎いたします。

工学部同窓会があります。3年ごとに開く総会を開催します。

新しい本部役員も提案されます。総会の審議事項や課題などの意見交換がなされるでしょう。主な課題は同窓会の決算・予算等のほか、今回は保持する基金の活用法の明確化と長期を見据えた工学部支援の策定です。大勢の会員に参加いただきご意見を伺えればと念じております。

工学部創立七十五周年事業は、学部には事業委員会が設置され、事業計画の検討が本格的に始まります。

同窓会でも学部との連携を図る必要があると考えております。

まずは「工学部創立七十五周年事業期成会」を組織し、学部事業委員会への支援体制を整える必要があります。

また、同窓会独自の記念事業を行えないか、企画できたらと考えております。

皆様には、ご意見や役割の担当、活動への応援をお願いすることとなります。

ぜひ鹿児島大学工学部の研究・教育の充実及び工学部同窓会の継続・発展のため支援・協力を引きつづきお願いします。

平成27～28年度の一期目に引き続き、二期目（平成29～30年度）の工学部長・工学系長職を勤めることになりました。皆様よろしく申し上げます。

昨（平成28）年度より、国立大学法人における第3期中期目標・中期計画期間がスタートしました。この期間においては、「強み・特色の重点化」、「グローバル化」、「イノベーション創出」、「人材養成機能の強化」の4つの機能強化に対する改革を積極的に推進していくことが強く求められています。理工系（特に工系）に関しては、労働力人口減少の中、高付加価値なイノベーションを創出する人材の育成に大きな期待が寄せられ、H27年3月に「理工系人材育成戦略」が発表されました。現在は産学官円卓会議の示唆を受け、経済産業省と文部科学省が協同して戦略の充実・具体化を推進している状況です。来るべき第4次産業革命を支える人材を育成するために、機械・電気通信・土木建築。応用化学など既存分野に加えて、数理、データサイエンスなど新分野における教育研究を更に充実させ、海外、産業界と積極的な連携を行っていくことが強く期待されています。

一方、鹿児島大学においては、人件費不足の課題を解消するために、退職教員の後任募集抑制などの削減方策を取らざるを得ない状況です。工学部においては、この厳しい状況下、人的リソースが不足し各教員の負担が増大する中で、いかにして活力を生み出すかということを最重要課題として取り組んできました。一期目においては、新たに工学部将来計画ワーキングを立ち上げ、これまで培ってきた強み・特色を堅持しつつ、多面的・総合的評価に基づく入学者選抜への対応と入学後の進路決定（大括り）を両立するための方策策定、「エクセレント・レクチャラー選考・表彰制度」新規導入、「教育研究アドバイザー制度」新規導入を達成しました。また平成27年度に学長裁量経費の支援を受けて行った「農水工連携ワーキング」の一環として立ち上げた湧水町におけるドローンを用いたアーモンド畑の生育モニタリングが新聞報道されるなど、地域貢献に関しても着実に成果を挙げています。これからは、学科縦割りを是正するための融合教育プログラムの設定、学年構成柔軟化のための6年一貫制度の導入など、将来に向けた改革に着手していく予定です。

工学部の将来を考える上で、同窓会は欠かすことのできない貴重な存在です。50周年記念事業において制定された岩崎国際学術交流基金、工学部研究交流基金の助成により、多くの学生・教員の研究活動を支援していただいております。同窓会と連携しつつ平成32年度に実施する工学部創立75周年記念事業を、工学部全体で円滑に進めるため、鹿児島大学工学部創立75周年記念事業委員会要項、「鹿児島大学工学部創立75周年記念事業部会要項」、「鹿児島大学工学部創立75周年記念事業実行委員会要項」を制定し、武若実行委員長を中心に同窓生を中心とするメンバが様々な記念事業の企画検討を行っています。同窓会の皆様の更なるご支援を宜しく申し上げます。



工学部百年の計に向けて その3

工学部長
渡邊

陸



凡事徹底で人間の基本技能を築く

太田 芳明

昭和43年工学部機械工学科卒 1945年11月21日生
元TOTO株式会社 取締役常務執行役員
現TOTO株式会社 特別社友 72歳

工学部同窓生の皆様方におかれましては、様々な分野でご活躍の事、あるいは毎日楽しく穏やかにお過ごしとの事と推察いたします。

私は昭和39年工学部機械工学科に入学しました。この地で素晴らしい仲間、恩師に出会うことが出来ました。なかでも忘れられない恩師が昨年8月満96歳でご逝去された末永勝郎先生です。先生には材料力学など学問はもちろんの事、人間としての基本技能「凡事徹底」をご指導いただきました。人間としての当たり前の事を実践する事これが難しいのです。他愛のない挨拶、ありがとうの感謝の言葉、失敗したときのごめんなさい等これらが備わって人間力を高め、信望が得られる等社会に出て知らされました。「愛情と信頼」、「人、友人、仲間を大切にしろ」「人のために尽くせ」等数多くの事も教えられました。恩師、仲間、鹿児島県の風土文化に育まれ勉学は言うまでもなく、人間としての多くの素養を学び勇気と、希望を持って卒業しました。昭和43年卒業後は東陶機器株式会社、現TOTO株式会社に入社しました。入社時はユニットバスの設計部門で建築の事がさっぱり判らず苦勞しました。その時思ったのが「希望、辛抱、きかんぼう」です、つまりは「負けん気一本やり」と「目標管理」でした。若い時は秩序に反抗し自分の意志を主張するやんちゃ坊主でしたが、だんだん立場が上がってくると、お客様や、市場が何を求めているのかを判断し先ずは「気づいて」、次に具体的に「感づいて」、最後に施策「思いつく」ことを実践しました。おかげさまでTOTOのなかで設計、生産管理、事業企画、営業（支社長）、子会社社長、TOTOの取締役常務執行役員を歴任いたしました。これも裏打ちには学生時代に学んだ「凡事徹底」を座右の銘として実行したおかげと鹿児島大学をありがたく心より感謝し、誇りに思っています。さて退職後は、気は長く、心は丸く、腹立てず、口慎めば、命長かれをモットーに楽しく、穏やかに過ごしています。そんな中で共通の趣味であるゴルフや母校への愛、恩返し of 気持ちが高まり「鹿大北辰会」と命名し活動しています。会員は大宮司尚、堤直敏、柿元邦彦、太田芳明の4名です。昨年より鹿大での3月交流会の講演、10月機械工学科セミナーでの講演を実施し少しでも学生諸君の参考になりお役に立てればと思っています。今年も3月、10月はすでに講師も決め担当教授と打ち合わせを重ねています。講演会時の学生諸君の真剣な眼差しと素晴らしい講演会後のレポート、先生方の笑顔が忘れられません。今後はこのような活動の常態化を考えています。

最後になりますが同窓生皆様方の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

各学科・専攻の状況

機械工学科

学科長 池田 徹

あけましておめでとうございます。機械工学科と大学院機械工学専攻の近況について、ご報告させていただきます。

現在の機械工学科の学生在籍数は、平成29年10月1日現在で、学部1年生103名、2年生110名、3年生112名、4年生92名の合計417名です（内留学生が7名、女子学生21名）。大学院機械工学専攻の学生在籍数は、博士前期課程が114名で、博士後期課程が3名となっています。

教職員の動向としては、平成29年4月に足立吉隆教授が名古屋大学大学院工学研究科材料デザイン工学専攻の教授に、郭永明助教が、本学教育センターに異動されました。また、10月1日より、高橋淳二先生が青山学院大学より本専攻の准教授に着任されました。その結果、現在の教員数は24名となっております（教授9名、准教授9名、助教6名）。

教員の学内活動としては、近藤英二教授が副学長として、木下英二教授が副学部長として活躍されています。研究活動としては、片野田教授らが日本溶射学会論文賞を、小金丸准教授らがエレクトロニクス実装学会MES2017ベストペーパー賞を受賞するなど数件の受賞がありました。競争的研究資金獲得状況は、科学研究費補助金の新規採用が7件、その他が19件でした（4月～11月）。

学生の動向としては、熊澤研究室の学生チーム「ち〜くま」がETロボコン2017九州南地区大会で優勝し、全国大会に出場しました。また、駒崎研究室の小畑啓介君や村越研究室のカンカー・ナッティカーンさんが国際学会の発表で受賞するなどの成果を上げました。就職状況も好景気に支えられて、100%の就職率を達成できる見込みです。

また、2018年度に機械工学科2号棟の耐震改修工事が行えることになり、準備を始めております。

機械工学科の今後の発展のためには、同窓会会員の皆様のお力添えが不可欠です。これまで同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学科

学科長 福島 誠治

平成27年度4月から教員は学術研究員理工学域工学系に所属し、大学院理工学研究科電気電子工学専攻と工学部電気電子工学科の教育を主担当しています。平成29年4月におけ

る教員数は22人であり、その内訳は教授7人、准教授9人、助教6人となっています。昨今の人事動向として、平成29年3月に宮島廣美教授および住吉文夫理事が退職なさいましたことを報告します。宮島教授および住吉理事にはともに名誉教授の称号が付与されました。同年4月に篠原篤志助教が大阪府立大学から着任の上、電気エネルギー分野において精力的に教育、研究に取り組んでいらっしゃいます。技術職員の池田稔技術長が定年となりましたが、再雇用となりこれまで通りの業務を担当していただいています。

さて、JABEEの審査を平成28年度に受審していましたが継続認定が確定し、外部機関から認証された質の高い工学教育を継続しています。その活動のひとつに、平成27年度に開始しました「カリキュラムに関する外部連携会議」があります。この会議は外部の方から学科の学習・教育到達目標、カリキュラム、新しい取り組みについて意見を伺う場です。平成29年度も「きばっと会」の日程に実施し、(株)GXコーポレーション顧問の横瀬義和氏から貴重な御意見、御感想をいただきました。

同窓会の方がたには、学生への教育研究支援事業である「新入生ウェルカムパーティー」「きばっと会」などで多大なるご支援をいただいております。厚く御礼申し上げます。今後も社会に貢献できる人材を排出すべく、教職員一丸となって努力してまいりますので、皆様には今後とも御支援、御協力、厳しい御意見をよろしくお願い申し上げます。

建築学科

学科長 曾我 和弘

平成29年4月に、澤田准教授（鉄骨構造、建築振動）が島根大学に転出され、今年度の建築学科は、教授6名、准教授4名、助教4名の計14名体制で運営してまいりました。1名欠員となりましたが、学科の先生方は、教育、研究はもとより、地域貢献、国際交流にいたるまで、幅広くご活躍されました。

今年度、建築学科は、幾つかの節目を迎えました。まず、本学科の本間教授が、平成29年4月に理工学研究科長に就任され、理工学研究科全体の運営にご尽力されました。

2点目に、建築学科棟の1号館（通称：製図棟）の改修工事が、平成29年9月に終わりました。2号館の改修に続き、これで建築学科棟の全ての改修が完了したことになります。1号館の1階には地域ことづくりセンター、工学部ギャラリー、レクチャールーム、2階には技術部と工学部同窓会事務局のスペースが設けられています。また、建築学科の専有スペースは3階となり、アクティブラーニング室（1年生の製図室）、アクティブラーニング準備室、学科会議室、ミーティングルームなどが設けられました。平成29年度は、新たな環境のもと、建築学科の教育、研究を再スタートする記念すべき年となりました。是

非、新たな建築学科棟をご覧いただければと思います。

3点目として、平成29年11月19日～21日に、JABEE（日本技術者教育認定機構）の継続審査のため、実地審査を受けました。正式な審査結果は平成30年4月に届く予定ですが、現時点において6年間の継続認定が得られる見込みとなっております。2006年度から継続的にJABEE認定に取り組んできましたが、建築学科にとって、評価にW（ウィーク）のない今回の審査結果は、初めての快挙です。これまでの建築学科の教育改善が評価され、本学科のプログラムが、日本技術者教育認定基準（2012年度～）に適合していることが示されました。審査では、卒業生アンケートや卒業生面談が実施されました。ご協力いただきました卒業生の皆様に感謝申し上げます。

今回のJABEE認定は、平成30年から6年間有効ですが、その後については、社会の動向を見ながら、また現在進行中の工学部改革への対応を進めながら、学科として判断することになります。引き続き、次の未来に向けて、全教員で議論し、学科の更なる発展と学生の育成に努めて参ります。卒業生の皆様には、今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

環境化学プロセス工学科

学科長 二井 晋

本学科は化学の知識で社会に貢献する工学を目指しており、教員10名、学生入学定員35名と、工学部で最も小さい学科ながら、高い研究実績を挙げ、競争的外部資金を獲得し、優れた研究環境を実現しています。学生へのきめ細かい教育と実践的な研究を行っていることで、卒業生は産業界から高く評価され、求人倍率は平均して4倍以上を維持しています。学科のHPを8月に刷新いたしましたので、ぜひご覧ください。

私自身のことで恐縮ですが、2014年4月に筒井教授の後任として着任し、3年目で学科長を拝命いたしました。不慣れでございなのですが、同僚の先生方や、折に触れ先輩教員や卒業生の方々から励ましのお言葉をいただきつつ、運営させていただいております。日頃のご厚情に感謝申し上げます。

学科の近況としてまずお伝えすべきは、本学科の発展に大きく貢献された、高橋武重先生が8月13日にご逝去されたことです。先生は化学工学会でも永くご活躍され、全国から深い哀悼の意が寄せられました。ご冥福をお祈りします。

平田好洋先生が、第3回日本セラミックス協会のフェローを受賞されることになりました。この賞はセラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げられたことが認められたもので、学科として大変名誉であり皆様と喜びを分かち合いたいと思います。

水田敬先生が9月25日付けで博士（工学）の学位を取得されました。学位論文の題目は「高い異方性熱伝導をもつ熱拡散板の性能モデルと電子デバイス実装への応用に関する研究」です。また、水田先生は平成29年度から工学部に設置され各学科から1名が選出される、ベストティーチャー賞に選ばれました。

中里勉先生は鹿児島大学の若手教員海外研修支援事業で5月から9月末までの5ヶ月間、アメリカのフロリダ大学のParticle Engineering Research Center（PERC）に留学され、Prof. Brij M. Moudgil（モーギル先生）と研究されました。

本年度も各種の学会にて学生が活発に研究発表を行い、受賞しました。研究成果が全国的に高く評価されております。

平成22年度に改修され、当時は応用化学工学科1号棟と呼ばれた建物が、環境化学プロセス工学科棟に名前が変更され、耐震改修が行われました。7月から12月までの5ヶ月にわたる工事を経て、南側と北側にM字型の補強支柱が取り付けられました。

環境化学プロセス工学科では、同窓生の皆様が築かれた伝統を引き継ぎ、新たな価値を積み上げるべく、教員と学生で励んでおります。今後とも、ご指導ならびにご支援をお願い申し上げます。



海洋土木工学科

学科長 山口 明伸

昨年11月以降に来学された方はご承知のことと思いますが、我々の海洋土木工学科棟は現在改修工事の真っ最中で、学科の全教員およびその研究室は一時的に郡元キャンパスに分散し、様々な部局の施設を間借りして頑張っています。具体的には、「環境システム」分野の先生方（安達・山城教授、柿沼・齋田准教授、加古・長山助教）と学科事務室は、

海洋土木工学科棟近くの2階建ての共用棟1プレハブに移っています。また、「建設システム」分野は、山口、審良・木村准教授、小池助教が教育学部の付属小隣りの共用棟2プレハブに、三隅・酒匂准教授が旧農学部6号館である共同利用棟に、さらに武若教授が工学部工場2階の旧地域コトづくりセンター長室に、それぞれ仮住まいしていますので、お訪ねの際はお気を付けください。

本年6月にリニューアルが完成する新生海洋土木工学科棟には、本学科で実施している研究、教育、社会貢献等の活動をさらに推進・発展させるための新しい試みが多く取り入れられており、その中には同窓会や地域社会の皆さまにご利用いただける内容も含まれています。例えば、一階の玄関ホールには、エリアを拡大して一角にラウンジを設け、簡単な打合せなどにも活用いただけるWi-Fi環境付きのテーブルコーナーと本学科の最新の活動状況を紹介する常設モニターを設置します。また、これまで十分に活用されていなかった2階屋上を情報交換と憩いのためのテラスとして開放し、学生はもちろん来訪者の皆様に自由にご利用いただけるようにします。なお、このテラスへは、玄関横に新設するシラスコンクリートを用いた外階段を使ってアクセスできるようになります。また、テラスと連結する閲覧室では、本学科が所蔵する各種情報誌や学会誌等などの貸出も可能です。

これらの設備に加えて、研究面では、複合的自然災害リスクを評価するための2軸式可振動機や大型載荷試験等が新規導入されるなど、各分野の実験・分析環境の再整備を進めています。また、学科教員で新規に設立した一般社団法人構造物診断技術研究会との連携もスタートします。来年度も、成長を続ける海洋土木工学科の動向に是非ご注目ください。

最後になりますが、これまで28年間の長きにわたり本学科の教育・研究にご尽力されてきた浅野敏之先生が、平成30年3月をもって定年退職を迎えられました。本年6月には退職記念祝賀会が計画されています。この場をお借りして、先生の大学および地域社会への多大なるご貢献に対し深く敬意を表します。学科としては大きな戦力ダウンに違いありませんが、残る教職員一丸となって、本学科の担う教育・研究にこれまで以上に積極的に取り組む所存です。引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

情報生体システム工学科

学科長 内山 博之

情報生体システム工学科は、学部定員が80名、博士前期課程の定員が42名と、機械工学科、電気電子工学科と並んで、規模の大きな学科・専攻です。当学科は情報工学科と生体工学科の生体電気分野を母体に平成21年に誕生し、早9年が過ぎようとしています。今年度工学部は当学科教授でもある渡邊学部長のリーダーシップの下、学部改革の検討に入り

ましたが、当学科も優れた情報技術者の育成を第一目標に、研究教育分野の検討を開始し、今後は認知生体情報学分野と協創情報学分野を学科・専攻の研究の二本柱に設定し、相補的な発展を目指すこととなりました。認知生体情報学分野では、今後の急速なAI技術の発展とニーズに対応すべく、AI技術の応用指向の研究と、その技術の基礎となっている脳神経科学の基礎的研究を、並行して重点的に行います。協創情報学分野では、AIやビッグデータ処理などの様々な先進的情報処理技術と、人の生活や仕事・産業との協調的発展を指向する研究を行います。また、学科所属の多くの教員が携わっている「視覚機能の理解と応用」を学科の研究の特色としてアピールし、教員間の共同研究を促していきます。

28年度末に他機関への転出と定年退職で3名の教員が去り、現時点で20名の教員で教育研究を行っています。国立大学、特に地方の国立大学の置かれている厳しい環境を反映して、鹿児島大学も教員人事は大学本部の厳密な精査の元に置かれる現状となっていますが、来年度当初には新しい教員を迎えられるよう公募を開始し、優秀で熱意のある教員の獲得に努力しております。

学生の就職状況はおかげさまで好調で、就職率ほぼ100%が達成されています。これも、同窓会の皆様の日頃のご努力の賜物で、産業界での鹿大OBの皆様の高評価を反映したものと感謝いたしております。今後とも益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

化学生命工学科

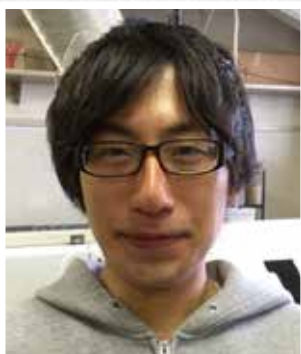
学科長 門川 淳一

本学科は、「化学」をキーワードとした物質環境化学コースと生体化学コースから構成され、有機化学、物理化学、生化学、環境化学、バイオテクノロジーなどを専門とする教員によって、教育と研究を行っています。また、大学院前期課程も同様に応用化学コースと生命工学コースに分けていますが、学部、大学院とも運営、教育は共同で行っています。現在の教員構成は、物質化学環境コースの教授として肥後、准教授として吉留、上田、高梨、中島、金子、助教として満塩の計7名、生体化学コースの教授として隅田、門川、橋本、准教授として山元、助教として橋口、若尾、新地の計7名です。

本学科では、教員のみならず学生・院生も積極的に国内外の学会や学術雑誌に成果を発表し、各種の賞を受賞しています。また、教員の科学研究費補助金や各省庁の補助金など外部資金の獲得率が高く、学科全体として活発に活動しております。隅田教授が代表取締役をしているベンチャーの(株)スティックスバイオテックが、鹿児島大学から鹿児島大学認定ベンチャーとして正式に認定され、9月に九州ニュービジネス協議会から平成29年度

九州ニュービジネス大賞審査員特別賞を受賞しております。また、門川教授が実行委員長を務め、山元准教授が実行委員に加わって11月に繊維学会秋季研究発表会を開催しました。本学科の教育プログラムは、平成23年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）により審査を受け6年間の認定がなされておりましたが、11月19日～21日に認定継続の審査が行われ、プログラム責任者の肥後教授のもと、教員一同で準備をして審査に臨みました。評価にW（ウィーク）のない審査結果を頂き、6年間の継続認定が得られる見込みとなっています。

卒業生の皆様には、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、本学科への変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



在学学生から

化学生命工学科で得たもの

化学生命工学科4年

佐野 翔大

私は、高校の頃から化学に興味を持っており、大学で化学関係の研究をやりたいという理由で化学生命工学科に入学しました。入学当初は、高校化学レベルの知識しかなく、化学はどのような学問であるか分かっていませんでした。しかし、専門教育での講義を通して、化学は物質変換の学問であり、有用物質の生産や分析・評価の基礎として重要であるとともに、また生命現象に関わる学問の基礎であることを学びました。そして、化学の分野の中でも特に、分析化学に関心を持ったため、環境分析関連の研究室に所属しました。

私の研究の目的は、淡水生物に対するAs(V)の毒性に与えるTiO₂ナノ粒子の影響を明らかにすることです。生物を扱う実験を行うので、思った通りの実験結果を得られない等、うまくいかないことが多くあります。しかし、講義では学ぶことのできない知識や経験を得ることが出来るので大変充実しています。

来年度からは、大学院へ進学します。学部で培った知識を大学院で生かし、自分の研究をさらに発展させていきたいと考えています。また、学会での研究発表や資格取得のための勉強により、自己の向上のための経験も積み重ねていきたいと思います。

最後に、大学院進学を支えてくれた家族には大変感謝しております。家族への恩を返すためにも、世界的な視点および地域社会的な視点から、広範な視野を柔軟にもって科学技術の発展に貢献できる研究者を目指したいと思います。



在学生から

海洋土木です。

理工学研究科 博士前期課程1年
海洋土木工学専攻
上宇都 瑞季

「学校で何の勉強をしているの?」という質問に「海洋土木です。」と答えると、「何を
するところなの?」「女の子いるの?」と返ってくるのがお決まりのパターンです。人の
暮らしをつくってきたはずなのに土木といわれてその仕事内容を理解している人は多くな
く、働きやすさを改善してもっと女性の雇用を多くしようという業界全体の動きも、まだ
まだ世間には広まっていないのかなと感じます。

私が高校1年生の時に東日本大震災が起き、地震で発生した津波が街を襲う報道を見た
時、当時の私は東北というと凄く遠くのことの様に思い、大地震が起きたと認識はできて
も実感はあまりありませんでした。私が大学院の試験を受けようとしていた頃、震災を振
り返る特集番組があり、海洋土木工学科に入学して4年目を迎え、講義を欠かさず受けて
きたその時に震災直後に見た同じ映像を見ると、こみ上げたのは悔しい気持ちでした。講
義の中でどんな研究がされてきて、どんな技術が開発されてきたのかを聞いたり調べたり
してきたからこそ少しショックを受けてしまいました。それでも復興のため、日常生活を
取り戻すため、守っていくために土木がどういうことをしているのかをもっと知って欲し
いと思います。

現在私は大学院に進学し、九州西岸域の湾や港湾で発生し漁船の転覆や破損、床下浸水
などの被害をもたらす副振動と呼ばれる海水面の振動現象の発生メカニズムや、発生予測
監視システムの構築を目指した研究をしています。今年は研究対象となる地域で漁業をさ
れている方の協力を借りて観測を行いました。観測を行いながらどのくらいの被害が出て、
どう思ったのか、その後どうなったのか、他にもその地域のことなどを船に揺られながら
話を聞かせて頂き、論文を読むだけでは知ることができなかったリアルな声を知り、自分
の研究は誰かの生活と結びついていると感じました。

分からないことも丁寧に教えて下さる先生方、観測準備やプログラミングの助言などを
くれる先輩、同期、後輩の存在はとても大きく、まだまだ女子の入学者数は少ないですが
皆に支えられながら充実した学生生活を送っています。寧ろどこよりもわがまを聞いて
もらっている気がします。周りのサポートを受けながら今後は社会に出て様々な壁にぶつ
かった時、それに対応していける自信につながるような経験やスキルアップを目指して頑
張っていきたいです。



在学生から

「博士後期課程進学」

理工学研究科 総合理工学専攻

博士後期課程 1 年

奥 雅貴

私は、学部3年生で受けたパワーエレクトロニクスの講義がきっかけでこの分野に関心を持ち、今の研究室に入りました。みなさんはパワーエレクトロニクスとはどのようなものかご存じですか。簡単に言えば、ダイオードやトランジスタといった半導体デバイスをスイッチとして用い、電力変換を行う技術です。中でも私は、スイッチング電源（半導体スイッチの1周期あたりのオン・オフの比率を変えることによって電力変換を行う）の内部で電力変換を担うDC-DCコンバータに関する研究を行っています。具体的には、実験やシミュレーション、解析を通して回路の基本動作特性を調べています。みなさんにとってスイッチング電源という言葉は馴染みがないかもしれませんが、非常に身近な存在であり、ほぼ全部の電子機器に用いられているといっても過言ではありません。例えば、携帯電話用の充電器やパソコンのACアダプタがあります。

私は、修士1年生の3月の前半までは就職を考えていました。就活は人の一生を左右する大イベントですので、志望動機はもとより、今後自分がやりたいことは何なのかということを確認しなければなりません。私の場合、やりたいことについて自問自答を繰り返した末に、自身の研究の継続および学部・修士時代に学んできた知識や技術を後輩に教えるという結論に辿り着き、エンジニアではなくアカデミックの道を選択しました。両親や指導教員の後押しもあって博士後期課程へ無事進学することができました。

進学後は、前期（修士）課程と比べさらなる成果が求められるので以前より高い意欲を持って研究に取り組んでいます。今後は学会発表や論文投稿を通して知識や技術、プレゼンテーション能力をさらに深めていき、将来はアカデミックポストに就きたいと考えています。



留学生から

建築学

理工学研究科 博士前期課程 1 年

建築学専攻

周 容旭

(ZHOU RONGXU)

私が日本を留学先を選んだきっかけは、中学校三年生の時初めて見た日本のアニメでした。その人物はみんな美しく、私の心を引き付けました。人物のみならず、アニメの中には文化や習慣もありますので、私は段々日本に興味を持つようになり、学校の日本語のクラスに入りました。そして、勉強するにつれて、更に日本が好きになり、日本に留学することを決めました。

建築学を選んだきっかけは、2013年中国の四川を襲った大地震です。四川の大地震では、工事の不備により、多くの小学校が倒壊し、幼い命が犠牲になりました。その時思い出したのが、2011年に発生した東日本大震災です。東日本で大地震も同時に、大きな被害をもたらしました。しかし、こうした原因による被害は余りなく、「絆」を大切に、一致団結する日本人の精神に強く心を打たれました。そしてこのときをきっかけに、安全な建築を学びたいと強く思うようになりました。

4年間の全学部を卒業した後、更に専門知識を深く学ぶため、大学院に進学することを決めました。現在、「アジアにおける気候変動を考慮した将来気象データの開発に関する研究」を行っています。将来、経済発展に伴う温室効果ガス排出の更なる増加が予測されており、建築・設備の気候変動対策は急務の課題です。私は将来、建築の分野で、住宅・建築の温熱環境、省エネルギーに関するシミュレーションを行い、住宅・建築内の環境を快適にすることを目標としています。大学院で十分に学びそして研究し、もっと建築環境設備分野についての専門知識を身につけたいと思います。そして、大学院に修了後、中国に戻り建築環境設備に関する企業に入社し、自分の故郷建設に少しでも役に立ちたいと思います。

また、大学院1年の夏休みの期間に、理工学研究科の理工系国際コミュニケーション海外研修に参加し、新しい経験を得ました。この研修を通して、自分の英語力・コミュニケーション能力を試すことができました。将来、日本だけではなく、地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得ることを望んでいます。

工学部【岩崎国際交流基金】および【研究交流基金】について

ここでは、工学部創立50周年記念を機に制定された各基金についての紹介（鹿児島大学工学部五十年史より）と運用実績（平成28年度のみ）、また、工学部創立75周年記念事業に向けた取組みを同窓生の皆様に報告できればと思います。

【岩崎国際交流基金】

工学部創立50周年を記念して故岩崎與八郎氏の意志に基づいて寄贈された寄付金（1億円）を原資として鹿児島大学工学部岩崎国際学術交流基金が平成8年に制定、平成9年度から施行されています。この基金では、工学部の国際学術交流事業を助成し、国際的学術研究教育の振興に資することを目的として、教職員の海外研究派遣、外国人研究者講演や大学院生の国際学会および国際研究集会への派遣事業などを行うことが規定されています。これらの助成事業は基金の利息（不足分は学部長裁量経費から補填）で運営されており、平成28年度は20件の助成（総額：151万円余）を行っております。

【研究交流基金】

工学部創立50周年記念事業期成会から受け入れられた寄付金（5,134万円余）を原資として、鹿児島大学工学部研究交流基金が岩崎国際学術交流基金と同年月に設立されています。この研究交流基金は、工学部の研究交流事業を助成し、研究・教育の振興に資することを目的として研究集会開催や大学院生の国内学会発表派遣事業などを行うことが規定されており、これらの助成事業は毎年250万円（不足する場合は学部長裁量経費から補填）で運営されており、平成28年度は21件の助成（総額：156万円余）を行っております。

本会報では平成28年度の実績しか報告しておりませんが、これまでも同程度の助成が実施されています。このように、工学部創立50周年を機に制定された【岩崎国際交流基金】、【研究交流基金】ともに、工学部教職員および大学院生の諸活動に活用されています。しかし、近年、特に岩崎国際交流基金においては、基金の利息のみでの運用が困難となっており、ほぼ毎年度、学部長裁量経費で補填しているのが現状です。この状況を鑑み、工学部創立75周年記念事業においては「工学研究・海外派遣等助成制度」、つまり、将来の鹿児島大学工学部を背負う若手研究者や学生の諸活動を恒常的に支援する助成制度の設置が検討されています。工学部同窓生の皆様には、継続的な助成制度実施に対するご理解とご協力を賜れば幸いに存じます。

工学部体育祭

平成29年11月18日 鹿児島大学第二体育館 約130名

工学部体育祭では、様々な学部、学科から学生が集まり、大いに盛り上がった。競技は毎年恒例のバスケットボールを行ったが、経験者も未経験者も関係なく皆が懸命に取り組み、又、楽しむことができたものとなった。

(海洋土木 ^{つるた} 鶴田 ^{たくや} 拓也)



教員の異動

<採用>

(電気電子)	篠原 篤志	助教	平成29年 4月 1日付	大阪府立大学
(機 械)	高橋 淳二	准教授	平成29年10月 1日付	青山学院大学

<転出>

(建 築)	澤田樹一郎	准教授	平成29年 3月31日付	島根大学
(情報生体システム)	木原 健	助教	平成29年 3月31日付	産総研
(機 械)	足立 吉隆	教授	平成29年 3月31日付	名古屋大学
(情報生体システム)	川崎 洋	教授	平成29年 3月31日付	九州大学

<退職>

(化学生命・化学工学)	大木 章	教授	平成29年 9月29日付	昭和61年 4月 1日から平成29年 9月29日
-------------	------	----	--------------	--------------------------

<定年退職>

(電気電子)	宮島 廣美	教授	平成29年 3月31日付	昭和63年 4月 1日から平成29年 3月31日
(情報生体システム)	二宮 公紀	准教授	平成29年 3月31日付	平成 5年 8月 1日から平成29年 3月31日

<配置換・他部署へ移動>

(機 械)	郭 永明	助教	平成29年 4月 1日付	総合科学域総合教育学系
-------	------	----	--------------	-------------

◇教員・卒業生の受賞◇

※受賞日順

- ・木場仁美（情報生体システム工学専攻平成28年度修了）、小野智司（情報生体システム工学専攻 准教授）：鹿児島県発明協会会長賞，H29年11月
- ・大塚作一（情報生体システム工学専攻 教授）：電子情報通信学会「創立100周年記念懸賞論文：優秀賞（情報・システムソサイエティ）」，H29年 9 月
- ・重井徳貴（電気電子工学専攻 准教授）：日本知能情報ファジィ学会「貢献賞」，H29年 9 月
- ・小野智司（情報生体システム工学専攻 准教授）：人工知能学会「研究会優秀賞」，H29年 6 月
- ・小野智司（情報生体システム工学専攻 准教授）：第64回鹿児島県発明くふう展「（公財）発明協会会長奨励賞（一般部門）」，H29年 1 月
- ・木原健（情報生体システム工学専攻 助教）：第14回日本認知心理学会「優秀発表賞【技術性評価部門】」，H29年 1 月
- ・永山務（電気電子工学専攻 助教）：IEEE MTT-S Japan, Kansai and Nagoya Chapters, “IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award”, H28年12月
- ・永山務（電気電子工学専攻 助教）：IEEE MTT-S Japan, Kansai and Nagoya Chapters, “Michiyuki Uenohara Memorial Award”, H28年12月
- ・永山務（電気電子工学専攻 助教）：2016 International Conference on Advance Technologies (ATC), “Best paper award”, H28年10月

機友会

機友会本部の活動状況

機友会総会は、工学部同窓会総会が開催される年には開催しないことになっているため、本年度の開催は無かった。そのため、この場を借りて来年度の機友会総会日程をお知らせ致します。

■開催日時：平成30年11月17日(土) 17:00より

■会場：温泉ホテル中原別荘 (鹿児島市照国町15-19)

■会費：5,000円(旧教員および42年卒までの方、学生の方は半額)

皆様、奮ってご参加下さい。

本部の活動として、総会の他には、講演会として、学生と若手技術者との交流会、学部3年生を対象とした機械工学セミナーでの講演、学部1年生を対象としたフレッシュマンセミナーでの講演などを行っています。

本年度の機械工学セミナーでは、機械工学科OBの機友会関東支部北辰会の柿元邦彦氏をお招きし、「結果がすべての覚悟」と「天・知・人」という題目で講演頂き、大変好評でした。

平成29年度 機友会各支部の活動を以下のとおり報告します。

福岡支部の活動状況

機友会福岡支部では、平成29年総会を平成29年11月18日(土)、西鉄イン福岡13Fの「ブロッソ」において開催しました。当日は来賓1名(大学：学校行事のため不参加、恩師：井手英夫先生)と会員14名の計15名の出席者で、広い会場をゆったりと使用し、贅沢な気分で実施することができました。総会では議案として会計報告(決算報告・監査報告・予算案提案)及び新役員案が提案され、予算案にご指摘があるなど活発な審議をいただきました。新役員については下表のとおり承認されました。その後、懇親会に移り、井手先生の乾杯の音頭と近況報告、会員の近況報告へと続けました。井手先生は大学退職後は川内ポリテクカレッジで機械をはじめ電気電子の学生に講義や演習をしたり、医療専門学校でも臨床工学技師を目指す学生の指導をされたり、さらに母校でも研究を継続されたりと元氣にご活躍されています。会員の近況報告では、出身校の話、最近の健康状態、奥様・親御様の介護、孫のお世話、退職後の趣味、旅行の話など多種多様な話が繰り出しました。特に自称工学部音楽科という秋吉先輩には即興で「黒田武士」をご披露していただき、大

いに盛り上がりました。

支部総会は毎年11月の第1土曜日開催を基本としています。お知り合いの方がおられましたら、その旨お伝えいただくと幸いです。

福岡支部の総会の課題としては、若い方の参加が少ない状況ですので、具体的な対応策を検討し、出席者が増えるように努力していきたいと思います。今回の総会にて井手先生も大いに協力していただけたとのことで大変力強い応援をいただきました。

次に、不定期ですが「支部交流会」と称し、総会以外の会員交流の場を開いています。今年度は既に3回開催し、良い情報交換の場になっています。

さらに、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部（通称：福岡北辰斜の会）にも参加しています。

【支 部 長】	池田 篤（S51卒）	【会計幹事】	田中 宣秀（S58卒）
【副支部長】	後藤 康史（S52卒）	【会計監査】	後藤 康史（S52卒）
【幹 事】	柳 和宏（S57卒）		



平成29年10月25日(水) 機械工学セミナー講演会で講演される柿元邦彦氏



平成29年11月18日(土) 福岡支部総会田和前支部長挨拶写真



平成29年11月18日(土) 福岡支部総会集合写真

関西支部の活動状況

「関西支部」の総会は平成29年7月1日(土)に大阪市内の「大阪マルビル大阪第一ホテル」にて、井手先生、中尾先生のご来賓のもと、49名で開催しました。

総会は是枝健治代表幹事(昭63卒)の開会の辞で始まり、篠崎支部長(昭44卒)の挨拶、そしてご来賓の二人の先生に鹿児島大学の近況のお話を含めたご挨拶を頂きました。講演としてダイキン工業(株)の是枝隆二氏(昭55卒)に『企業での苦情対応「難渋クレームに関する法的解釈」』と題して講演して頂きました。

続いて懇親会では、内山六郎氏(昭34卒)の乾杯でスタートし、歓談の後、スペシャルイベントとして中けいこ様(鹿大理学部 昭45卒)他2名によるハワイアン公演を開催し、歌・ウクレレ・ダンスと大いに盛り上がりました。

その後、初参加メンバーの紹介とスピーチ、来年度の幹事紹介と挨拶、そして応援歌である七校寮歌の「北辰斜めに」を唱和し、川上満州夫氏(昭30卒)の万歳三唱で盛況の内に閉演しました。

最後に出席者全員の写真撮影を行い、来年度の再会を誓い、解散いたしました。

来年度は平成30年7月7日(土)に今回と同じ「大阪マルビル大阪第一ホテル」開催の予定です。



平成29年7月1日(土) 関西支部総会写真

中京支部の活動状況

「中京支部」の総会を平成29年7月14日(金)に愛知県知立市の「ホテルクラウンパレス 知立」にて開催しました。機友会本部から福原稔先生と浜崎和則先生のご来賓を仰ぎ、静岡の遠方からの出席もあり、総勢83名で盛会しました。

総会は本年度幹事会社の三菱自動車工業(株)の司会進行のもと、支部長の斎藤和幸氏(S47卒)の挨拶に始まり、会計報告及び承認に続き、ご来賓の福原先生より鹿児島大学の近況を、浜崎先生よりご自身の近況を報告していただきました。星野昭平氏(S33卒)の発声による乾杯ののち歓談となり、会社単位で近況の報告をいただいた後、「巻頭言」「北

辰斜めに」を合唱し、副支部長の青木幸久氏（S49卒）による万歳三唱で盛況のうちに閉宴しました。

中京支部では幹事会を定期的に開催し、中京支部の活性化に向けた運営を行っています。遠方からの会員や若手会員が参加しやすい環境作り、本部の協力を得ての新卒者への入会の促進などに取り組んでいます。来年度総会は平成30年7月13日(金)に開催予定です。



平成29年7月14日（金） 中京支部同窓会写真 その1



平成29年7月14日（金） 中京支部同窓会写真 その2

関東支部の活動状況

9月24日に鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会が開催され、機友会関東支部から16名の会員に参加いただきました。総会2部の講演会では、卒業生のJAXAの小林裕希様の講演を拝聴しました。日本の宇宙開発、宇宙実験に関わる興味深い話で、鹿児島大学工学部の若き卒業生の幅広い活躍に工学部の更なる躍進を期待すると共に、同窓会連合会の意義を再確認するとても良い講演でした。

本年10月20日機友会関東支部総会を開催する予定です。



平成29年9月24日 鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会写真

また、昭和43年機械工学科卒業のニッサン、モータースポーツ、インターナショナル（NISMO）アンバサダー柿元邦彦氏が「GT-R戦記」を執筆し、三栄書房より出版されました。出版を記念して、同窓生有志により出版記念パーティーが本年1月26日、三州倶楽部にて開催され、同窓生有志、NISO関係者、出版社関係者50余名が柿元氏を祝福しました。若き在校生、同窓生が「GT-R戦記」を読んで、柿元氏の素晴らしい成果に触発され、未来に向けて活躍されることを期待します。

錦水会



◇鹿児島支部◇

鹿児島支部総会開催

鹿児島副支部長 池田 浩二

鹿児島支部総会が平成29年10月28日に鹿児島市のホテルパレスイン鹿児島で開かれました。総会では、前年度の事業・会計報告、新年度の事業計画案・予算案が承認されました。また、今年度役員において、白石巖委員が退任して、小川重訓委員、向田善博委員が新たに加わる議案が承認されました。懇親会は、きばっど会講師、旧教官や現職教員、学生有志も参加して開かれました。きばっど会講師と新任教員の挨拶や現役学生の自己紹介等を交えながら、和やかな雰囲気の中で近況の交換や歓談が進み大いに盛り上がりました。

◇関東支部◇

学生との交流会を開催（平成29年9月5日）

関東支部編集幹事 宮下 勉

電気電子工学科の学生20名と、引率の八野知博教授と川越明史准教授が工場見学のために上京されましたので、恒例の交流会を実施しました。支部からは8名の先輩が出席し意見交換しました。半世紀以上続けている行事であり今後も後輩のために継続していきたいと思います。

第4回 鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会（平成29年9月24日）

前田学長をはじめ多数の来賓の出席をいただき、総勢約210名で総会が行われ、錦水会からは21名が出席しました。記念講演会では、錦水会OBであるJAXA有人宇宙技術部門

でHTV（宇宙ステーション補給機）の開発、運用に従事する小林裕希工学博士〔2008年卒〕に、「宇宙の宅配便 -日本の補給機“こうのとりの”」と題して講演いただきました。興味深い話と共に、第一線での後輩の活躍ぶりを頼もしく感じる心地よい会でした。



電気電子工学科3年生との交流会



小林さんによる記念講演会の様子

◇関西支部◇

平成28年度 関西支部総会

関西支部長 白濱 和人

関西支部では、近年は、総会を3月に開催しており、大学からは例年2名の先生方に出席していただいております。平成28年度は、平成29年3月18日(土)に大阪市の道頓堀ホテルにて、総会を開催、前島圭剛先生（電気電子工学科）と辻村誠一先生（情報生体システム工学科）の2名の先生方をお迎えしました。平成29年度は、平成30年3月17日(土)道頓堀ホテルにて開催の予定です。

～平成28年度総会 式次第～

16～17時 レクチャー（辻村先生）

17時10分～17時30分 総会

17時30分～20時

懇親会、母校近況紹介（前島先生）



◇東海支部◇

近況報告 ～今年も会えました。来年もまた会おう～

東海支部長 永野 博

11月18日、今年卒業の二人を含め19名出席の支部総会となりました。お越し頂いた湯ノ口先生より、変化が起ころつつある組織と学生指導の面の日々に関しての大学をお聞きし、法人化後の組織がまだまだ苦労が続くような現状を知りました。椅子（座敷でなく助かりました）を交えて、社会人としてあるべき事、技術



者としてあるべき事、将来を考えて今やっておくべき事等、参考にしてもらおうとの先輩の思い、それやってみたいとの後輩の会話の場があちこちで見られました。また、今年も浜松地区における同窓会も20名程の参加があり、これからも協力して歩いていくことを確認した場ともなりました。最後は「北辰斜」にを歌い、元気な再会を約してお開きとなりました。

◇福岡支部◇

平成29年度 福岡支部総会

福岡支部長 権藤 正信

平成29年11月25日、天神テルラで、電気電子工学専攻の重井准教授に出席いただき、45名で開催しました。第1部では権藤支部長の挨拶、会員の近況報告、H28年度決算報告、H29年度予算案、役員改選、総会会費の変更などの承認を実施しました。第2部では、懇親会開始に先立ち、大学の近況報告がありました。懇親会は、今春卒業・修了した新人3名の参加もあり、幅広い年齢層の参加者が先輩・後輩関係なく交流し、皆さん笑顔で楽しい雰囲気、大いに盛り上がりました。閉会の前に恒例の蓮尾紀博さん（S56年卒）の指導のもと、「あつい涙」、「北辰斜に」を全員で歌い、最後は一番若手の酒元啓祐さん（H29年修了）の万歳三唱で閉会としました。



◇熊本支部◇

平成29年度 熊本支部総会

熊本支部長 小田 博昭

第22回錦水会熊本支部総会は、例年のように10月第一土曜日（10月7日）にANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて、浏田孝康先生に出席いただき、総勢11名で開催しました。総会は、昨年10月に亡くなられた山口純一先生を偲び黙祷で始まり、議事では、1年間の活動報告、28年度会計・監査報告及び29年度の予算と活動計画について了承



されました。懇親会は、健康を取り戻された村上寛先輩（S44電気卒）の乾杯にはじまり、久しぶりに出席いただいた澤山さん（51電子卒）、前田さん（52電気卒）をはじめ出席の皆さんから、日頃の健康方法などの近況報告をいただき、時間のたつのも忘れ大変楽しいひと時となりました。昨年の熊本地震の本格的な災害復旧はこれからというところですが、来年も元気に会うことを誓って、最後に記念撮影を行い、恒例の「北辰斜めに」を声高らかに歌い散会となりました。

◇宮崎支部◇

平成29年度 宮崎支部総会

宮崎支部長 野崎 公憲

第34回宮崎支部総会は、平成29年10月21日(土)に「和食の橘」において、電気電子工学専攻の川越明史先生にご出席いただき、総勢13名で開催しました。総会においては、例年通り会計報告、役員選出について審議し、次年度から支部長・役員の交代を行いリフレッシュすることになりました。大学の近況報告として、川越先生からは、母校の近況や先生の研究の超伝導線材・導体・コイルの電磁・熱特性評価技術開発等及び学科の就職状況等について詳細に報告を戴きました。懇親会は、福岡隆様（S37卒）の乾杯により始まり、出席者の趣味、仕事等の近況報告等も交え、時間を忘れ大変楽しいひと時を過ごしました。先生の近況で大学構内青空の下での飲酒ができなくなったとのことで、時代の変遷を感じると共に、昔の自由な青春を懐かしく思い出されました。最後に、合唱部OBの大合唱に合わせ、若い高らふ感情の旋律のもと、「記念祭歌」、「巻頭言」、「北辰斜に」を謳い散会となり、多くの方は二次会へと移動となりました。



◇学内関連◇

新入生歓迎ウェルカムパーティー

平成29年度も鹿児島サンロイヤルホテルの昼食バイキングを利用し開催されました。4月12日は、電気電子工学科の新入生82名、OBと教員12名が参加し、葉山会長と小川内勝



ウェルカムパーティー（電気電子）



ウェルカムパーティー（情報生体）

則氏（電気子平24卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。5月10日は、情報生体システム工学科の新入生62名、OBと教員13名が参加し、池田鹿児島支部副支部長と小平田直也氏（情報平25卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。

学生向け講演会「きばっど会」

鹿児島支部副支部長 池田 浩二

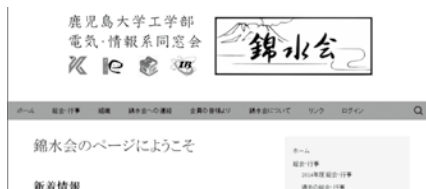
電気電子・情報生体系の同窓会・錦水会では、卒業生が在学生の今後の進路検討などの参考となるように講師をする講演会「きばっど会」を毎年、開催しています。きばっど会は支部総会の日に合わせて学内の講義室を借用して開催し、卒業後まだ年数が短くて学生と年齢が近い若手1人と卒業後20年以上経つベテラン1人の2人をお願いしています。今年は(株)リクシルから渡氏と(株)GXコーポレーションから横瀬氏をお願いしました。卒業するときの職業を選ぶときの本人の考え方とか、会社の中でも開発分野から営業分野まで年齢を重ねながら、深く広く技術を深める努力や幅広く人脈を広げるチャレンジ精神の重要性などについて実体験を通して話があり、学生たちは熱心に聴講していました。



錦水会ホームページのご紹介

総会等の最新情報の確認、住所変更等の錦水会へのご連絡は、錦水会ホームページにアクセス下さい。

<http://kinsuikai.sakura.ne.jp/>



◇学生を受賞◇

※受賞日順、学年は受賞当時（＊は発表当時）

- ・加治屋颯太（電気電子工学専攻2年，指導教員：堀江雄二）：応用物理学会九州支部「発表奨励賞」，H29年12月
- ・宮崎貴将（電気電子工学専攻2年，指導教員：山本吉朗）：平成29年度電気・情報関係学会九州支部連合大会「電気学会論文発表賞B賞」，H29年12月
- ・根比瞭（情報生体システム工学専攻2年，指導教員：佐藤公則）：日本知能情報ファジィ学会九州支部「学生優秀講演賞」，H29年12月
- ・井上ひかる（情報生体システム工学専攻2年＊，指導教員：佐藤公則）：電子情報通信学会・バイオメトリクス研究会「奨励賞」，H29年11月
- ・芝優希（情報生体システム工学専攻2年，指導教員：小野智司）：認識・理解シンポジウム「MIRU学生奨励賞」，H29年8月
- ・久富あすか（情報生体システム工学専攻2年，指導教員：小野智司）：人工知能学会「全国大会優秀賞」，H29年7月
- ・垣内英志（電気電子工学専攻2年，指導教員：西川健二郎）：Progress In Electromagnetics Research Symposium 2017 in St Petersburg “Best Student Paper Award”，H29年5月
- ・森辰也（博士後期課程総合理工学専攻1年，指導教員：山本吉朗）：The 3rd IEEE International Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization “Outstanding Paper Award”，H29年3月
- ・濱野皓志（電気電子工学専攻1年，指導教員：西川健二郎）：電子情報通信学会 無線電力伝送研究会 2017高周波整流コンテスト GHz部門「HigHest Efficiency Award」，H29年3月
- ・根比瞭（情報生体システム工学専攻1年，指導教員：佐藤公則）：情報処理学会九州支部「奨励賞」，H29年3月
- ・堀之内惇樹（情報生体システム工学科4年，指導教員：潤田孝康）：情報処理学会九州支部「奨励賞」，H29年3月
- ・久富あすか（情報生体システム工学専攻1年，指導教員：小野智司）：情報処理学会九州支部「奨励賞」，H29年3月
- ・成田暉（電気電子工学専攻2年，指導教員：山本吉朗）：平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会「電気学会論文発表賞B賞」，H28年12月
- ・甲斐峻大朗（電気電子工学専攻1年，指導教員：山本吉朗）：平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会「電気学会論文発表賞B賞」，H28年12月

AOI 会

AOI会会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。また、本学科の教育活動にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2017年度学部卒業生45名、大学院修了生27名を加え、AOI会総会員数3,241人（内教職員62名）となりました。

さっそくですが、学科の近況と、AOI会各支部の活動を、ご報告申し上げます。

■建築学科棟1号館、2号館 改修工事完了

建築学科2号棟の耐震改修工事に引き続き、2017年度4月から9月にかけて、建築学科1号棟（製図棟）の改修工事が行われ、10月に竣工致しました。これにより、建築学科棟は1号館、2号館ともに改修を終え、新たな環境で充実した教育・環境をスタートしました。学科棟1階には、工学部ギャラリーを配置、各設計課題が終了した後、設計課題優秀作品を選抜し作品展を行っております。また、製図棟1階（建築学科1号棟）にあった製図室は、学科棟2号館2階に移動し、スペース拡充を行いました。この拡充により、学科学生全員に各自の製図スペースを割当、充実した製図環境を確保することが可能となりました。鹿児島にお越しの際には、是非、新たな建築棟と製図棟にお立ち寄りください。



改修後の建築学科1・2号棟 2017.11 撮影



建築学科棟2F 新製図室「B-STUDIO」

■建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

2002年から開催されている同会は今回で16回目を迎えました。最前線で活躍されている本学科の卒業生をお招きし、社会経験、人生観等、「いま、後輩へ伝えたいこと」を講演して頂くとともに、先輩との情報交換を目的として企画しております。毎年異なる、多岐に渡る分野で活躍される先輩にそれぞれの経験談を伝えていただく事は、学生にとって極めて有意義な機会となっています。

日時 | 2017年9月30日(土) 14:00~17:00

場所 | 鹿児島大学 稲盛会館

藤井竜子 「インテリアコーディネーターて？」

旧姓：松下竜子 平成10年卒 オフィスドラコ 主宰

松岡哲也 「人と人を繋ぐ仕事」

平成3年卒 四国旅客鉄道(株) お客様サービス推進室 デザインプロジェクト担当室長

岩川千行 「人生を振り返って」

昭和50年卒 清水建設株式会社 専務執行役員 名古屋支店長



建築ナビ 当日の様子



講師 OB・OG 左から藤井さん 松岡さん 岩川さん

■第10回「AOI会設計優秀賞」受賞式

創作・設計活動に秀でた学生を奨励する事、また次世代を担う若者を先輩として応援することを目的とし、創設されました。2016年度受賞学生です。

□第10回同年の2016年度 AOI会設計優秀賞

1年生 | 鳥越さくら 前 綜一郎

2年生 | 原 瑞穂 藤瀬 雄登

3年生 | 田村健太郎 吉原 佳代

■第60回鹿児島大学建築展

hangarchitecture ～日常の見慣れた風景を変える～

多くのAOI会会員の皆様のご支援により受け継がれている「建築学科建築展」を、今年も開催しました。建築展は、企画、広報、資金調達、製作まで、全てを学生のみで行う自主的活動プロジェクトです。昭和30年頃からスタートした、本やらん会は今年で60回目を迎えました。第60回のテーマは「hangarchitecture ～日常の見慣れた風景を支える」針金ハンガーを使って表現しています。

日時：2017年12月2日(土)～3日(日)

会場：天文館天神おつきやぴらも～る

主催：鹿児島大学建築学科3年生有志

鹿児島大学第60回建築展実行委員長

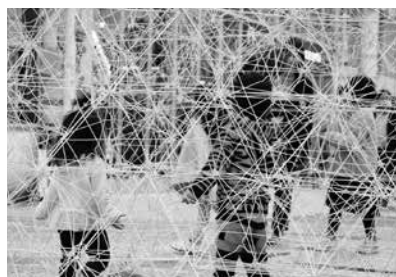
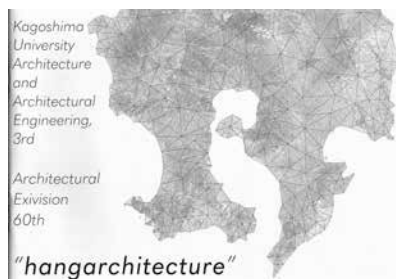
藤原淳・宮原佳美

2017年12月2日(土)～3日(日)の2日間、天文館天神おつきやぴらも～るで鹿児島大学第60回建築展を開催しました。

今回は、『hangarchitecture ～日常の見慣れた風景を変える～』というテーマのもと作品を制作し、私たちが普段学んでいることを老若男女問わず沢山の方々に見て、知って、感じてもらいたいという思いのもと実施しました。当日は寒い中多くの子どもからお年寄りまで幅広い世代の方々が足を止め、興味を抱いてくださいました。大変なこともたくさんありましたが見てくださる方々に温かいお言葉をいただき、建築の力というものを実感しました。最後になりましたが、広告掲載にご協力いただきました企業の皆様、アドバイスをくださった先生方、先輩方に感謝いたします。本当にありがとうございました。



受賞者 田村君 / 藤瀬君 / 鳥越さん / 原さん / 前君



建築展当日の様子

2017年度 AOI会各支部の活動報告

■鹿児島AOI会

報告 | 有村 祐介 (H19卒)

鹿児島AOI会では、毎年2月の第1土曜日に懇親会を兼ねた厄払い会を開催しております。今年は参加が総勢65名、その内5名(男4名、女1名)の厄年の方に舞台に上がって頂き、豆まきならぬ豆配りという形で節分・厄払いを行いました。北九州AOI会から参加いただきました土田先生から瑞宝中綬章の受賞のご報告と謝辞を賜り、お祝いムードの中で懇親会が開催されました。北九州AOI会の土田先生に加え、宮崎AOI会の安倍様(S46卒)、関西AOI会の長崎様(H7卒)にもご参加頂き各支部の近況をご報告頂きました。懇親会前にはAOI会会員が携わった優秀な建築作品を表彰する「2017年AOI会建築賞」授賞式があり、上大迫様(H4卒)、藤井様(H10卒)、内田様(H9卒)の3名が受賞されました。それぞれの作品のプレゼンテーションも行われ、鹿児島で活躍している先輩方の仕事にたくさんの方の刺激を受けることができました。



平成30年2月3日 AOI会 厄払い会集合写真

■宮崎AOI会

報告 | 星川 竜二 (H27卒)

平成29年7月14日(金)に宮崎市にて、宮崎AOI会懇親会が開催されました。今回は17名が当会に参加していただき、例年行われている会員全員による個々の近況報告では、現在のお仕事の状況や家庭で奥さんと上手くやって行く方法など、あらゆる内容の報告が行われました。皆さん元気いっぱいです！ また、今後は若い世代の参加者が増えることを願い、宮崎AOI会をどのように発展・継承していくかなどが話し合われました。

宮崎AOI会 概要

名誉会長:黒木 正(S30卒)

会長:安部 洋人(S46卒)

副会長:新川 正文(S46卒)



平成29年7月14日 宮崎AOI会懇親会の様子

■北九州AOI会

報告 | 黒木 康博 (H8卒)

平成29年12月2日(土)に、福岡市中央区天神で、AOI会北九州支部総会・懇親会が行われました。母校からは、柴田先生がお越しくださり、土田先生と黒木先生にも参加いただきました。当日はドリカムのコンサートと日にちが被り、どうしても宿が取れず柴田先生には日帰りを強いてしまいました。お許し下さい。

AOI会北九州支部は、毎年12月の第一土曜日に総会と懇親会を行っております。今回は上記先生方を含め54名の参加となりました。今年は、H29卒の堀内さんから、S33卒の木本さんまで、全員が自己紹介を行う、自己紹介合戦を行いました。いつの間にか土田先生が司会となり、「君、ぼくを覚えているよね?!」などと、弟子としては返答に窮する司会ぶりが面白く、会はとても楽しいものとなりました。

会の締めは、例年通り歌です。S53卒の中嶋さんの巻頭言には「もとい」がかかりましたが、皆で円陣を組んで歌う北辰斜めには感動的でした。三島先生の直弟子のS35卒の内田さんの挨拶の後、三島先生が死期を悟られてご自分で吹き込まれた「焼酎の歌」をかけ、全員で歌いました。

S48卒の佐伯支部長の開会の挨拶の中に、「独立する時に先輩方には本当に世話になった」という言葉がありました。私も独立する時に(独立した後も)世話になった一人です。人生の節目に先輩と膝を交えて話ができ、親身になって助言してもらえるそんな機会はそうないと思います。若いOBの参加を増やす方法がないものかと知恵を絞りたいと思っています。



平成29年12月2日 北九州AOI会集合写真と当時の様子

■関西AOI会

報告 | 平柳 伸樹 (H28卒)

関西AOI会では、毎年9月の最終土曜日に総会と懇親会を開催しており、今年は総勢34名の卒業生が参加されました。会の締めでは、皆で肩を組んで「北辰斜めに」を歌い、楽しいひと時を過ごしました。

また毎年2月には、学外実習の大学2回生を迎えて関西圏内にある建設現場見学会と交流会を開催しており、卒業生と学生が交流する機会となっています。

近年は特に若手卒業生の参加人数が増え活気が増し、関西AOI会はより一層多業種多世代の交流の場となっています。年の差は最大で60を超える会ですが、同じ学び舎で励んだ者同士、世代を超えて通じ合うものがあり、思い出話に花を咲かせていつも盛り上がっています。

平成29年度活動

2017年4月29日 春の交流会 京都市内

2017年8月4日 幹事会

2017年9月30日 平成29年度総会

2017年11月18日 ゴルフ懇親会
箕面ゴルフ倶楽部

2017年12月18日 幹事会

2018年2月16日 大学2回生学外実習
現場見学会・懇親会



平成29年9月30日 関西AOI会集合写真

■各支部の年会日程と連絡先

支部名	支部長	日 程	連絡先
鹿児島本部	武田敏郎 (S50)	2月第1土曜日	塩屋晋一 (S50) 099-285-8299
関 西 支 部	瀬山憲正 (S47)	9月最終土曜日	平柳伸樹 (H28) 06-6943-1371
北九州支部	守 道明 (S42)	12月第1土曜日	守 道明 (S42) 092-871-8450
宮 崎 支 部	安部洋人 (S46)	7月中旬	川畑忠行 (H8) 090-8389-5819
大 分 支 部	和田正遠 (S25)	工学部同窓会として	和田正遠 (S25) 0977-25-1221
関 東 支 部	塘 直樹 (S41)	工学部同窓会として	楊 武雄 (S42) 03-3263-6554

南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとしまして、まず平成29年に開催された、第25回南窓舎密会総会に関する報告を致します。

平成29年10月14日に「第25回南窓舎密会総会および講演会」が開催されました。卒業生を招いての講演会には、平成20年博士後期課程修了 YEJガラス株式会社 技術部 甲原好浩 氏、昭和37年応用科学科卒業、前畑産業株式会社&ミハラカーボン株式会社 代表取締役社長 前畑康三 氏を講師としてお招きし、以下のようなタイトルにてご講演いただきました。大変貴重なお話をしていただき、現役学生会員および卒業生、約110名の参加者がありました。本講演会は、大学を出て10年以上経過した先輩がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等々、本音の話を聞き、「先輩のアドバイスをもとに就職活動を勝ちぬこう」という趣旨で、毎年総会と同日に開催しております。また、講演会后、会場を鹿児島市内のジェイドガーデンパレスに移し、総会および懇親会を開催いたしました。

■講演会（14：30－16：20）

会場：鹿児島大学工学部 稲盛会館

講演 1. 「最先端ガラス材料の開発について」

YEJガラス株式会社 技術部 ニューガラスマテリアル開発課 甲原 好浩 氏

講演 2. 「55歳で起業して」

前畑産業株式会社&ミハラカーボン株式会社 代表取締役社長 前畑 康三 氏



YEJガラス株式会社 甲原様



前畑産業株式会社&ミハラカーボン株式会社 前畑様

■総会・懇親会（17：00－20：00）

会場：ジェイドガーデンパレス（鹿児島市上荒田町）

議題：1）一般報告 本部報告、支部報告

2）会計報告 平成28年度決算、監査報告、平成29年度予算案

- 3) 次期役員 (案) 4) 新運営法 (案)
- 5) その他 工学部75周年事業について



第25回南窓舎密会 懇親会参加者一同



懇親会にて

総会後の懇親会には、染川賢一会長をはじめ、恩師である鎌田薩男先生、前田 滋先生、幡手泰雄先生、下茂徹朗先生にご出席いただきました。また、東海支部幹事 奥平浩之様、北九州支部長 黒田 眞也様にもご出席いただきました。宴では、講演会にてお話しいただいた甲原様、前畑様の両名、その他40名の方にご出席いただき、恩師の先生方には近況を語っていただきました。また各研究室より現役学生も多数参加し、同窓生の方々と焼酎を酌み交わしつつ話を弾ませておりました。

南窓舎密会関西支部総会

関西支部の総会は、平成29年11月11日(土)にグランド白楽天(大阪市北区)にて、福里隆一支部長(応化S46卒)の司会のもと開催されました。参加者は、幹事である田中譲次氏(応化S46卒)、前田雄一氏(化工S49卒)、諏訪下一美氏(応化S49卒)、今村恵氏(化工H3卒)、樋渡功氏(応化工H18卒)を含めた関西支部の19名、また東海支部から、種子田實郎支部長(応化S41卒)、落合志礼幹事(応化S46卒)、奥平浩之幹事(応化H2卒)、来賓として南窓舎密会本部から、吉田昌弘先生(環境プロセス工学科)、山元和哉編集幹事(応化工H8年卒、化学生命工学科)の総勢24名が参加しました。吉田先生より学科の近況、続いて種子田東海支部長より東海支部の現状の説明があり、次期支部役員の選出では、現在の幹事が続投となり、関西支部および支部間の交流等の活性化について議論されました。懇親会は、司会を戸井啓介副支部長(化工S57卒)が務められ、山元編集幹事の乾杯後、参加者全員が現状報告を行い和気藹々とした雰囲気であり、“北辰斜めに”を全員で合唱し終了しました。



南窓舎密会関西支部総会 参加者一同

訃報

本年度、恩師であり本会の運営にも多大なる貢献をしていただきました、高橋武重先生が、8月13日午後、病氣療養中のところ永眠されました。また、現役教員であります、化学生命・化学工学専攻（化学生命工学科） 大木 章 教授が、9月28日急逝されました。突然のことで化学生命工学科教員一同、現実を受け入れられないままのお別れとなりました。お二人の先生方には、これまで南窓舎密会に対し賜りました熱い思いに対し、感謝の気持ちを忘れず、心から哀悼の意を表したいと思います。ご冥福をお祈りいたします。

教員配置図（平成30年1月現在）

平成29年度においては、上記の大木章教授の逝去に伴い教員の配置が変更されました。それ以外は、これまで同様の体制で、各先生方教育研究活動に邁進しております。平成30年1月現在の教員配置について、下記に記しておきたいと思います。

大学院博士前期課程 工系 化学生命・化学工学専攻（学術研究院 理工学域 工学系）

教 授：甲斐 敬美、二井 晋、平田 好洋、吉田 昌弘、門川 淳一、隅田 泰生、
橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉、上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、
中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助 教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬、新地 浩之、橋口 周平、満塩 勝、
若尾 雅広

工学部 環境化学プロセス工学科（学術研究院 理工学域 工学系）

教 授：甲斐 敬美、二井 晋、平田 好洋、吉田 昌弘

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉

助 教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬

工学部 化学生命工学科（学術研究院 理工学域 工学系）

教 授：門川 淳一、隅田 泰生、橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助 教：新地 浩之、橋口 周平、満塩 勝、若尾 雅広

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

会長 萩 亮（昭和52年卒）

しらなみ会会員の皆様、お元気でご活躍のことと拝察します。

このところ、国内では株価も好調に推移し、昨年6月に発表された平成29年度の建設投資見通しも前年度比5.4%増と、ここ数年回復傾向が見受けられます。東北の災害復興やオリンピックに向けた投資などの影響もあってなのか、我々土木の世界も幾分活気付いているのではと感じるこの頃です。皆様の周辺はいかがでしょうか。地域や業種で違いはあるでしょうが、上向きの波の中で充実した日々を過ごされていることを心から願う次第です。

昨年開催した総会には、約120名の同窓生が集いました。これまでも最大です。建設投資ではありませんが、ここ数回、少しずつ増えています。最初の卒業生の多くがまだ六十代半ば前の現役であるし、新たな卒業生が毎年仲間入りするのですから、当然といえば当然です。が、中身を見ると、建設会社や設計調査会社など民間会社に勤務する人が増えており、これまで行政に入った人が参加者の大半であったことを考えると、歓迎すべき傾向と考えます。国内の土木への投資の約80%は公共投資です。発注者と受注者という観点からも、同窓会は行政、民間双方の貴重な交流の場となりえます。大いに同窓会を活用してもらい、お互いの立場の理解にも貢献できる同窓会であればと思います。

前述したように、しらなみ会初期の卒業生が還暦を過ぎる年代に入っていますから、それぞれの世界で確たる経験を積んで来られた同窓生が数多くおられると推察します。長年の経験談などを講演していただき、学生をはじめ会員諸氏の励みとしてもらう講演会ができればと考えています。お声かけをしてみたいと思いますので、どうぞ、ご協力のほどよろしく願います。

「しらなみ会本部活動報告」

本部庶務幹事 木佐貫 浄治（平成2年卒）

本部における活動を報告します。

しらなみ会同窓会会則に定められている2年に1回開催される総会を平成29年4月22日に鹿兒島市内において、「第18回しらなみ会総会」を開催しました。

総会については、関東など遠方等から89名の方に参加していただき開催され、役員の一部改選や「海洋土木工学科棟改修に伴う支援事業」など4議案について、審議いただき全て承認していただきました。

その中でも、本年度から大学の事業として行われる、いわゆる「海土棟」の改修にあたり、

同窓生、研究者や来客の方々の交流の場として、多目的交流スペース（仮称）を整備することを目的とし、しらなみ会会費から200万円拠出することとなりました。大学側と協議・調整しながら整備を行うこととしています。

また、平成25年度から実施している「しらなみ会研究活動助成事業※」については、学生等から非常に喜ばれていることなど報告がありました。

引き続き、行われた講演会においては、山口明伸教授から「海洋土木工学科が取り組む地域創生と産学官連携～コンクリート工学分野を例として～」と題して、最近の大学や学科と地域などとの連携などについて講演いただきました。お忙しい中、卒業生にも興味深い内容の御講演をありがとうございました。

恒例の懇親会を開催したところ、120名もの方に参加をいただき盛大に開催されました。支部活動報告や新任の先生方の紹介など焼酎が進む中で行われ、最後は出席者全員で円陣を組んで「北辰斜め」の大合唱、しらなみ会の力強さを感じたところでした。

120名(前回は100名)にもなると全体写真撮影が難しいことがよく解りました。(反省点)
※学生会員の研究成果の向上を支援するとともに同窓会活動に対する理解を深めてもらうことを目的に年間10万円を限度に、学生会員に対して助成を行っています。



写真：懇親会前の集合写真（前田・佐藤・河野先生をお迎えし総勢120名、於 鹿児島市）

本部では定例の幹事会を開催しています。また、しらなみ会のホームページにおいて情報提供を行うとともに、同窓生の方々の御意見や御要望、又は情報提供等も募集しています。是非、「しらなみ会」で検索してみてください。

本部としても、皆様の意見を参考にさせていただきながら、同窓会活動を盛り上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

各支部の活動報告

「東北支部活動報告」

東北支部長 山田 満秀（平成7年卒）

しらなみ会東北支部が発足して早6年となりました。これもひとえに東北支部へご支援、ご協力を頂いている皆様のおかげであり、心より御礼申し上げます。

東北支部の発足当時は震災復興支援で多くの方が集まりましたが、現在は9名となって

います。小人数ではありますが、年6回程度の行事を目標に活動を行っています。行事としては、少人数でも世代を超えて親睦を深める懇親会とスコアと寒さを全く気にしない？ゴルフコンペが主体となっています。また、本年度は、関東支部より5月に川井田実氏（S59卒）、6月に山本喜裕氏（S56卒）、11月には秀島康史氏（S56卒）が仙台へお越しくださり、東北支部へ熱いエールを頂きました。また、山本氏、秀島氏には、ゴルフコンペにも参加いただき、大変な盛り上がりとなりました。仙台にご出張の際には、是非、東北支部へご連絡ください。有志にて懇親会を開催したいと思います。



東北支部の酔っ払い（H29.8.1暑気払い）

「関東支部活動報告」

関東支部長 瀬戸口 喜祥（平成7年卒）

平成29年度における関東しらなみ会の活動は以下の行事が行われました。

- 4月22日：しらなみ会の総会へ関東支部から瀬戸口支部長が参加
- 6月23日：平成29年度第1回関東しらなみ会懇親会
- 9月24日：第4回 鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会へ関東しらなみ会参加（同日、関東しらなみ会単独での懇親会も開催）
- 12月1日：平成29年度第3回関東しらなみ会懇親会（忘年会）開催予定

6月23日に開催された懇親会で9月24日に開催される「第4回 鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会」への参加を同窓会会員の方々へ要請し、その後、度々参加のお願いをしたところ、9月24日の鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会では関東しらなみ会から12名が参加し、8名の方々から協賛金もいただくことができました。また、鹿児島から来賓として、松永工学部同窓会会長（S52卒）にも御参加いただき、その後の関東しらなみ会の単独同窓会（懇親会）にもご参加いただき楽しんでいただきました。鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会では、抽選会が催され、当しらなみ会からは7名が当選と、他の同窓会

と比較して高い当選率を誇りました。12月1日には忘年会を予定しており、益々会員の親睦が深まると期待しているところです。

これからも、関東しらなみ会では、学会等で関東へお越しになる先生、学生、同窓生を歓迎するような会（飲み方）を開催し、若手の参加も促しつつ、同窓生同士の親睦を深めていきたいと思います。



鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会でのしらなみ会一同
(中央の女性は記念講演をされた鹿児島大学工学部OGの小林博士（JAXA所属）)

「関西支部活動報告」

関西支部長 大田 英司（平成7年卒）

＜平成29年度活動報告＞

関西支部の活動としましては、昨年11月に大阪大学で開催された海岸工学講演会に合わせて、佐藤先生や浅野先生にご参加いただいた交流会以来、大きな活動は行えておりません。

本年4月22日に鹿児島で開催されましたしらなみ会総会には、昨年、関西支部の事務局を引き継いだ立和田（H9）が参加し、卒業生の皆様や本部、他支部の幹事の皆様にご挨拶させていただきました。以後、よろしくお願いします。

また、鹿児島大学関西地区同窓会の動きを紹介させていただきますが、平成22年から他学部同窓会関西支部幹事による設立の企画・準備や昨年の鹿児島大学同窓会連合会からの声掛けにより、各学部の同窓会関西支部の幹事による準備会を経て、11月11日に同窓会が開催され、石田前支部長に参加していただきました。

しらなみ会関西支部としましては、鹿児島大学同窓会連合会関西支部の設立は反対ではないものの、当会が未来永劫にわたり存続するため、その設立の進め方につきましては、一定の手順を踏む必要があるとの意見を呈していただきました。

なお、今年度の活動としましては、年明けに新年会を予定しております。他支部に負けないように積極的に活動していきたいと考えております。

学会や出張等で関西に来られる際は、ぜひお声掛けください。

支部長：大田（H7）、副支部長：中西（S57）、事務局：立和田（H9）、事務局補佐：下部（H24）

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範（平成7年卒）

● 平成28年度

平成28年11月18日（金）に、福岡市中央区渡辺通にある「旬菜食房 ぎょくちょう」にて、福岡支部の年1回の総会と懇親会を、約30数名の参加のもと開催いたしました。

平成29年2月18日（土）には、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・懇親会に、しらなみ会福岡支部より5名参加しました。

● 平成29年度

平成29年11月22日（水）に、定番の開催場所となっております「ぎょくちょう」にて、約40名の参加のもと、総会と懇親会を開催いたしました。

今回は、建設システム工学の山口教授にも参加していただき、例年同様、活発な意見交換や近況の報告など、楽しく盛んに会が催されました。

また、平成30年2月10日（土）には、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・懇親会への参加を予定しております。

引き続き、しらなみ会の更なる発展に寄与してまいりたいと思います。

他支部でも苦勞されていることと思いますが、転勤や異動もあり連絡先の更新や情報把握に苦勞しているなか、同期生同士の繋がりなどで参加される方もあることから、皆様からの情報提供は非常に貴重でありますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

☆連絡先 橋本のメールアドレス hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp



鹿児島大学稲盛賞

(平成29年度)

平成29年度

[環境化学プロセス工学科]

上田 悠里

[化 学 生 命 工 学 科]

長谷部稜弥

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(平成29年度)

平成29年度

[機 械 工 学 科]

堀 公哉

山本 龍郎

[電 気 電 子 工 学 科]

岩永 英俊

松下 優介

[建 築 学 科]

脇田 佳

東田 喜見

[環境化学プロセス工学科]

西野 巧海

福原 芳樹

[海 洋 土 木 工 学 科]

軸屋 雄太

久留 圭佑

[情報生体システム工学科]

山口 貴洸

二見 悠樹

[化 学 生 命 工 学 科]

長谷部稜弥

早坂美似奈

累積学部長賞・成績優秀賞

(平成28年度)

平成28年度累積学部長賞

[機 械 工 学 科]

平松 大暉

宮部 浩介

宮田 惇介

廣森 亮

米倉 恵佑

田中 良季

和田 裕司

大神 悠太

反田 雄太

松竹 祥吾

今村 宣貴

山元成太郎

[電 気 電 子 工 学 科]	重石崇裕起		
	頼田 家維	一木 晃雅	的場 浩樹
[建 築 学 科]	東 優樹		
	清藤 彩	佐々木麻結	宇都宮尋史
[環境化学プロセス工学科]	廣森 優太	濱野 且智	須藤 千尋
	宮崎 優太	小森田大地	尾方 宏至
[海 洋 土 木 工 学 科]	高倉 蓮	岡山 純	北崎 敬将
	鴛海 英明	花立 博志	津山 雅徳
[情報生体システム工学科]	辻田 美帆	蔵田 隆生	長田 佑平
	濱田 泰行	鉦賀 弓貴	御領 聡史
[化 学 生 命 工 学 科]	上園 翔平	熊川 瑛至	山崎 敏哉
	川野 晃輔		
[化 学 生 命 工 学 科]	橋口 海斗	林 昂史	脇 純平
	森 美詠		

平成28年度累積成績優秀賞

[機 械 工 学 科]	野中 直樹	岡元 諒	土岩 寛侑
	森木 絢斗	中山 友希	三島 峻
[電 気 電 子 工 学 科]	安田 格	古市 寛明	松野 浩紀
	深江 望	山崎 俊二	
[建 築 学 科]	松田 拓也	古谷 奎輔	信國佑太郎
	秋好 恭兵		
[環境化学プロセス工学科]	則松 杏奈	ZHOU RONGXU	永倉 一成
	北之園裕子	伊集 貴洋	河村 悠希
[海 洋 土 木 工 学 科]	秦 健二	鳥越 千可	
	鬼東 祥伍	重本 真位	三宅 智子
[情報生体システム工学科]	切通翔太郎	田中 秀茂	野島 詩織
	三宅 公弥		
[化 学 生 命 工 学 科]	上宇都瑞季	宇山 真介	濱添 洸也
	中村 祐輔	有留 晴香	
[化 学 生 命 工 学 科]	田代 皐輔	高木 汰郎	澤山 翔一
	今別府建志	奈良 悠矢	深谷 祥孝
[化 学 生 命 工 学 科]	竹下 真悟		
	内田 有紀	武本 真菜	齊之平裕策
[化 学 生 命 工 学 科]	渡辺ひろこ	仮屋 深央	佐藤 瑠音
	落合 優輔	大山 真也	後藤みのり
[化 学 生 命 工 学 科]	新福 優太		

岸 園 賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
- 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
- 3) その他前1) 2) 号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる者

*平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

平成28年度受賞者

○三宅 征夫氏（応用化学科 S43卒 応用化学工学専攻 S45修了）

平成29年度受賞者

○今村 彬氏（電気工学科 S29卒）

今村彬氏は1965年に錦水会関東支部の設立に貢献し、その後第2代会長として長年にわたり会の指導、運営にあたられました。2008年に鹿児島大学からの要請もあり、亡き岸園司氏（元同窓会会長）と力を合わせ、連合会関東支部設立にも貢献されました。初代会長として就任後、今日までに長きにわたり会長職に就かれ指導、運営にあたられています。さらにこの間、横浜在住ながら工学部同窓会会長を2期務め、工学部の発展に寄与されました。また、東京品川にある、鹿児島県人会の交流を深めるための組織公益財団法人「三州倶楽部」において、長年理事として活躍され、鹿児島大学関係の会合や懇親会も開催されています。このように、今村彬氏は卒業以来長きにわたって工学部および工学部同窓会の発展に尽力された方として評価されました。

○福井 泰好氏（特別会員 元工学部長 元理工学研究科長）

福井泰好氏は、昭和53年5月に鹿児島大学工学部助手として就任され、平成27年3月の退職まで、通算36年11ヵ月にわたり教育、研究活動に従事され、数多くの技術者、教育者、研究者を育成された。この間、鹿児島大学評議員（平成15年2月～平成16年3月）、工学部副学部長・教育研究評議会評議員（平成17年2月～平成19年1月）を経て、工学部長（平成19年2月～平成22年度、平成25年度～平成26年度）として大学院理工学研究科の部局化や工学部改組に尽力された。この他、大学院理工学研究科長（平成21年度～平成24年度）を兼務され、入試改革、CAP制やGPA制度の導入など工学部の管理運営に多大な貢献をされた。また、重責を担われる中で、工学部同窓会では顧問という立場で数多くの同窓会総会等に積極的に出席され、また退職後の75周年記念事業準備会にも貴重な提言をされ、工学部同窓会活動にも尽力された。以上、福井泰好氏は機械工学科の管理運営および機友会の活動のみならず、工学部の管理運営および工学部同窓会活動に大いに貢献された。このような活動が工学部の様々な活動に大いに尽力しているものとし評価されました。

平成30年3月卒業及び修了生進路

機械工学科

【平成30年】

シチズン時計
I H I
京セラ
アルバック九州
大分キヤノン
アンリツインフィビズ
サムソン
クボタ環境サービス
吉川工業
JFEプラントエンジニアリング
ヤマハ熊本プロダクツ
国土交通省航空局
日研トータルソーシング
フジテック
ブリヂストンフローテック
安川エンジニアリング
A・R・P
オーレック
西島製作所
熊本県警察
T S 工研
スズキ
西日本エンジニアリング
ヤマハ発動機
デンソーテクノ
ブリヂストンタイヤジャパン
本田技研工業
ダイハツ九州
いすゞ自動車
村田製作所
九電工
佐世保重工業
旭化成
日立ビルシステム
アラタナ
A K K A P
鹿児島大学大学院
首都大学東京大学院
慶應義塾大学大学院
九州大学大学院
航空大学校

機械工学専攻

【平成30年】

三菱電機
京セラ
東洋製罐
花王
三菱ケミカル
京セラ
三菱電機FA産業機器
ユニプレス
N O K
本田技研工業
パナソニック
A T O U N
三菱自動車
日立金属
大分キヤノン
九州電力
宇部興産
新日鐵住金
三菱重工業
サムソン
テルモ
東レエンジニアリング
三島光産
トヨタ自動車九州
上野精機
ダイキン工業
三菱電機エンジニアリング
住友重機械工業
王子ホールディングス
I H I
九州電力
パナソニック
N O K
富士電機
牧野フライス製作所
日産車体
ヤンマー
西部ガス
東京エレクトロン
アズビル
日本製紙
荏原製作所
川崎重工業

モビテック

日本精工九州

ダイハツ工業

電気電子工学科

【平成30年】

RKBミューズ(株)
(株)アイティーシェルパ
(株)NHKアイテック
(株)オーイーシー
(株)関電工
(株)九電工
(株)共立電機製作所
霧島ホールディングス(株)
(有)k t-s
佐世保重工業(株)
シャープ(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
(株)ソフトウエア・サイエンス
(株)ソフト流通センター
大王製紙(株)
ダイキン工業(株) (2名)
ダイハツ工業(株)
日本ガス(株)
(株)日本システムデザイン
パナソニックデバイスSUNX九州(株) (2名)
富士チタン工業(株) (9月卒業)
(株)富士通九州システムサービス
三菱自動車工業(株)
宮崎富士通コンポーネント(株)
安川モートル(株)
鹿児島大学大学院 (55名)
九州大学大学院 (3名)
専門学校 (服飾系)

電気電子工学専攻

【平成30年】

アイシン・エイ・ダブリュ(株) (2名)
旭化成EICソリューションズ(株)
(株)NTTデータ・アイ
(株)荏原製作所
MHPSエンジニアリング(株)
王子ホールディングス(株)
九州電力(株) (3名)

京セラ(株) (2名)
 ジャパン マリニュナイテッド(株)
 新日鐵住金ステンレス(株)
 スズキ(株)
 住友電気工業(株)
 セイコーエプソン(株)
 ソニー(株)
 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) (2名)
 ダイハツ工業(株)
 (株)ダイヘン
 ドコモ・テクノロジー(株)
 (株)トヨタ車体研究所
 (株)ニッセイコム
 日本発条(株)
 日本貨物鉄道(株) (JR貨物)
 パナソニック(株)
 (株)日立製作所
 ファナック(株)
 富士通(株) (2名)
 (株)富士通九州システムサービス
 富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
 (株)富士通ソフトウェアテクノロジーズ
 富士電機(株) (2名)
 三菱電機(株) (3名)
 三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
 三菱プレシジョン(株)
 (株)村田製作所
 (株)安川電機
 ルネサスグループ (2名)

建築学科

【平成30年】
 LEGOLAND Japan(株)
 YKKAP(株)
 (株)SONEC
 (株)アキュラホーム
 (株)一条工務店
 (株)河村デザイン
 (株)清和ビジネス
 (株)大気社
 (株)大林組
 (株)銭高組 (2名)
 高砂熱学工業(株)
 国土交通省九州地方整備局
 佐世保市役所
 三井住友建設(株) (2名)
 山佐木材(株)

鹿児島大学大学院 (25名)
 新菱冷熱工業(株)
 大成建設(株)
 大和ハウス工業(株) (2名)
 日揮(株)

建築学専攻

【平成30年】
 JFE設計
 JXエンジニアリング(株)
 オリバー(株)
 コイズミ照明(株)
 (株)JA設計
 (株)構造計画研究所
 (株)松田平田設計
 (株)大林組
 (株)丹青社
 (株)竹中工務店
 (株)内藤建築事務所
 (株)日比野設計
 (株)平成建設 (2名)
 (株)傳設計
 (株)銭高組
 三菱ケミカルエンジニアリング(株)
 鹿島建設(株)
 創美設計(株)
 大成建設(株)
 日揮(株)
 日豊資材(株)

環境化学プロセス工学科

【平成30年】
 三井化学
 新興プランテック (2名)
 千代田商工 (2名)
 化血研
 西部石油
 山九
 丸久
 ダイキン工業
 シティーコミュニケーションズ
 日鉄住金環境プラントソリューション
 シチズン時計鹿児島
 岩谷産業
 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
 鹿児島大学大学院理工学研究科 (18名)

九州大学大学院総合理工学府

海洋土木工学

【平成30年】
 (株)IHI建材工業
 (株)安部日鋼工業
 (株)安藤・ハザマ
 (株)植村組
 コーアツ工業(株)
 (株)五省コンサルタント
 五洋建設(株)
 三州技術コンサルタント(株)
 大日本コンサルタント(株)
 中央コンサルタンツ(株)
 西日本高速道路(株)
 西日本高速道路エンジニアリング九州(株)
 東日本旅客鉄道(株) 新潟支社
 福岡北九州高速道路公社
 復建調査設計(株)
 三井住友建設(株)
 鹿児島県庁
 鹿児島市役所
 熊本県庁
 熊本市役所
 長崎県庁
 宮崎県庁
 広島市役所
 広島地方検察庁
 鹿児島大学大学院
 九州大学大学院
 東京工業大学大学院
 ユーコーラッキーグループ

海洋土木工学専攻

【平成30年】
 JX金属(株)
 (株)安藤・ハザマ
 エム・エムブリッジ(株)
 (株)オリエンタルコンサルタンツ
 (株)建設技術研究所
 昭石エンジニアリング(株)
 西日本高速道路(株)
 国土交通省九州地方整備局
 熊本市役所

情報生体システム工学科

【平成30年】

アウトソーシングテクノロジー(株)
(株)RKKコンピュータサービス
(株)HCSホールディングス
エコー電子工業(株)
(株)カクイックス
鹿児島銀行
(株)キャンドゥコンセプト
(株)九電ハイテック
京セラコミュニケーションシステム(株)
三洋ハウス(株)
サンワテクノス(株)
(株)セック
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
ソフトマックス(株)
(株)テクノプロ
(株)電盛社
(株)日本システムデザイン
パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)
(株)BCC
BTV(株)
富士ソフト(株)
富士通エフ・アイ・ピー九州(株)
(株)富士通鹿児島インフォネット
(株)freep
三菱電機ビルテクノサービス(株)
三菱UFJインフォメーションテクノロジー(株)
(株)南日本情報処理センター(2名)
(株)安川情報九州
(株)湯山製作所
奄美市役所
鹿児島県庁
長崎税関
大阪大学大学院
鹿児島大学大学院教育学研究科
鹿児島大学大学院 (37名)
九州大学大学院 (2名)
名古屋大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学大学院

情報生体システム工学専攻

【平成30年】

アイシン精機(株)
ANAシステムズ(株)
伊藤超短波(株)

(株)インテリジェントウェイブ
(株)SRD

NECソリューションイノベータ(株)
(株)NTTドコモ
(株)MJC
大分キャノン(株)
オムロン(株)
キャノン(株)
(株)QTnet
京セラ(株)
シミック(株)
ソニー LSIデザイン(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
ドコモ・テクノロジー(株)
凸版印刷(株) (2名)
南国情報サービス(株)
PSP(株)
(株)富士通鹿児島インフォネット
富士電機(株)
(株)朋栄
本田技研工業(株)
(株)南日本情報処理センター(2名)
ヤフー(株)
リコー ITソリューションズ(株)
(株)ルネサスエレクトロニクス (4名)
防衛省
鹿児島大学大学院 博士後期課程

化学生命工学科

【平成30年】

日本ヒューマンメディック
九州商船
宮崎富士通コンポーネント
日研トータルソーシング
岡野バルブ製造
京セラ
えがお
新日本科学
三井ハイテック
ニプロ
ボールド
宮崎市職員
姫路市職員
鹿児島大学大学院理工学研究科(31名)
九州大学大学院生物資源環境科学府

化学生命・化学工学専攻

【平成30年】

大分ガス
ラピスセミコンダクタ宮崎
住友大阪セメント
東レエンジニアリング
ニチアス
オルガノ
丸善石油化学
味の素エンジニアリング
KJケミカルズ
新日鉄住金化学 (2名)
ニプロ
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング (5名)
スズキ
ADEKA
DIC
タクマ
中外製薬工業
NOK
大学院
興人フィルム&ケミカルズ
アキレス)
三菱ケミカル
日産化学工業
京セラ
京セラドキュメントソリューションズ
アルバック九州
熊本乳業
星光PMC
名古屋製酪
トヨタ車体研究所
テクノプロ・R&D社 (2名)
新日本科学PPD
川澄化学工業
大塚製薬
日本新薬
小林製薬
北興化学工業
新日本科学
鹿児島大学大学院博士後期課程

同窓会役員名簿および部会

平成30年1月現在

顧問	渡邊 睦 (工学部長)
会長	松永 洋文 (海士52)
副会長	5部会会長 (次頁)
庶務幹事	曾我 和弘 (建築H6)
会計幹事	福原 稔 (機械56)
編集幹事	木村 至伸 (海士H10)
監事	山本 吉朗 (電気62)
	伊藤 博雅 (応化44)

【評議員】

◆機友会 (機械工学科・機械工学第二学科)

浜崎 和則 (39)	米倉 真一 (40)
皮籠石 紀雄 (45)	福原 稔 (56)
池田 清和 (56)	千田 一成 (61)
江口 之浩 (H1)	野妻 光彦 (H1)
中尾 光博 (特別会員)	定松 直 (特別会員)

◆南窓舎密会 (応用化学科・化学工学科・応用化学工学科・生体工学科 (生体機能材料工学コース)・環境化学プロセス工学科・化学生命工学科)

鎌田 薩男 (34)	染川 賢一 (39)
下茂 徹朗 (46)	大竹 孝明 (52)
吉留 俊史 (60)	安藤 浩毅 (H2)
伊藤 博雅 (44)	中島 常憲 (H6)
小幡 透 (H7)	有水 伸一 (H7)

◆錦水会 (電気工学科・電子工学科・電気電子工学科・情報工学科・生体工学科 (生体電子工学コース)・情報生体システム工学科)

永野 博 (46)	権藤 正信 (52)
野崎 公憲 (48)	小田 博昭 (47)
吉留 進 (47)	池田 浩二 (51)
測田 孝康 (63)	重井 徳貴 (H4)
川越 明史 (H9)	向田 善博 (H9)

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科・海洋土木工学科)

武若 耕司 (52)	萩 亮 (52)
濱田 成敏 (61)	羽田 好勝 (59)
木佐貫 浄治 (H2)	審良 善和 (H11)
小池 賢太郎 (H23)	山中 公平 (H2)
浜園 旗 (H2)	長山 昭夫 (H16)

◆A O I 会 (建築学科)

守真 和弘 (41)	末吉 重栄 (44)
宮城 泰児 (58)	渡島 秀夫 (H2)
肥後 潮一郎 (H4)	日野 真琴 (H7)
川畑 忠行 (H8)	藤井 英俊 (H10)
峰元 信明 (H13)	

工学部同窓会事務局

窪田 玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会 長	高 崎	征 忠	(39)
副 会 長	皮籠石	紀 雄	(45)
庶 務 幹 事	福 原	稔 博	(56)
会 計 幹 事	中 尾	光 博	(特別会員)
編 集 幹 事	田 淵	大 介	(特別会員)
編 集 副 幹 事	定 松	直 一	(特別会員)
監 事	佐 藤	紘 一	(44)
監 事	大 脇	研 正	(53)
関 東 支 部 長	吉 内	暉 史	(43)
中 京 支 部 長	齊 藤	幸 郎	(47)
関 西 支 部 長	篠 崎	信 一	(44)
福 岡 支 部 長	池 田	篤	(51)

◆錦水会

会 長	葉 山	勝 年	(41)
副 会 長	永 野	博 昭	(46)
副 会 長	小 田	博 昭	(47)
庶 務 幹 事	向 田	善 博	(H 9)
会 計 幹 事	曲 田	畜 二	(46)
編 集 幹 事	池 田	浩 二	(51)
監 事	濱 田	信 之	(41)
監 事	原 口	俊 幸	(53)
学内庶務幹事	渕 田	孝 康	(63)
学内会計幹事	川 越	明 史	(H 9)
学内編集幹事	重 井	德 貴	(H 4)
関 東 支 部 長	萩 原	健 人	(41)
関 西 支 部 長	白 濱	和 人	(58)
東 海 支 部 長	永 野	博 信	(46)
福 岡 支 部 長	権 藤	正 信	(52)
熊 本 支 部 長	小 田	昭 憲	(47)
宮 崎 支 部 長	野 吉	崎 公	(48)
鹿 児 島 支 部 長	留 留	進	(47)

◆AOI 会

会 長	武 田	敏 郎	(42)
副 会 長	徳 富	久 二	(42)
顧 問	川 上	道 夫	(34)
庶 務 幹 事	塩 屋	晋 一	(57)
会 計 幹 事	鷹 野	敦 子	(H14)
編 集 幹 事	増 留	麻 紀	(H11)
監 事	揚 村	固 男	(48)
監 事	下 山	道 男	(55)
関 東 支 部 長	塘 直	樹 正	(41)
関 西 支 部 長	瀬 山	憲 明	(47)
北九州支部長	守 道	明 道	(42)
大 分 支 部 長	和 安	正 洋	(25)
宮 崎 支 部 長	安 部	人	(46)

◆南窓舎密会

会 長	染 川	賢 一	(39)
副 会 長	安 藤	浩 武	(H2)
監 事	高 橋	重 博	(39)
監 事	田 中	徹 朗	(44)
代 表 幹 事	下 茂	俊 史	(46)
庶 務 幹 事	吉 留	透 一	(60)
庶 務 幹 事	小 幡	伸 太	(H 7)
庶 務 幹 事	有 水	園 郎	(H15)
会 計 幹 事	満 塩	孝 明	(H 6)
会 計 幹 事	大 竹	周 平	(52)
編 集 幹 事	橋 口	常 憲	(H 6)
編 集 幹 事	中 島	高 師	(53)
編 集 幹 事	山 本	敬 哉	(H 8)
編 集 幹 事	山 本	斐 美	(43)
教 官 評 議 員	甲 三	宅 征	(41)
関 東 支 部 長	種 子	田 実	(41)
東 海 支 部 長	福 里	隆 一	(46)
関 西 支 部 長	黒 田	真 也	(41)
北九州支部長			

◆しらなみ会

会 長	萩 亮	(52)
副 会 長	羽 田 好 勝	(59)
監 事	濱 田 成 敏	(61)
庶 務 幹 事	木 佐 貫 治	(H 2)
庶 務 副 幹 事	審 良 善 和	(H11)
会 計 幹 事	浜 園 誠 夫	(H13)
会 計 副 幹 事	長 山 昭 浩	(H16)
編 集 幹 事	山 中 池 浩	(H2)
編 集 副 幹 事	小 山 田 賢 太	(H23)
東 北 支 部 長	山 田 満 秀	(H 7)
関 東 支 部 長	瀬 戸 口 喜 祥	(H 7)
関 西 支 部 長	大 橋 喜 英	(H 7)
福 岡 支 部 長	橋 本 康 範	(H 7)

◆工学部同窓会大分県支部

支 部 長	大 石	喬 則	(応化 37)
副 支 部 長	福 田	公 善	(電気 38)
副 支 部 長	清 田	善 之	(建築 46)
幹 事 長	渡 辺	高 行	(機械 49)

本部 だより

平成29年度 鹿児島大学工学部 同窓会拡大幹事会 議事録

日 時：平成29年8月18日(金)

16:30～18:30

場 所：ジェイドガーデンパレス

出席者：

本部 松永洋文会長、曾我和弘庶務幹事、
福原稔会計幹事、木村至伸編集幹事、山本
吉朗会計監事、伊藤博雅会計監事

機友会 高崎征忠会長、福原稔庶務幹事(兼
本部会計幹事)、中尾光博会計幹事、田淵
大介会計副幹事、定松直編集幹事、佐藤紘
一編集副幹事、池田清和

錦水会 葉山勝年会長、淵田孝康庶務幹事、
川越明史会計幹事、重井徳貴編集幹事、池
田浩二

A O I 会 武田敏郎会長、塩屋晋一庶務幹
事、鷹野敦会計幹事、増留麻紀子編集幹事
南窓舎密会 染川賢一会長、下茂徹朗代表
幹事、吉留俊史庶務幹事、山元和哉編集幹
事

しらなみ会 萩亮会長、木佐貫浄治庶務幹
事、審良善和庶務副幹事、長山昭夫会計副
幹事、山中浩平編集幹事、小池賢太郎編集
副幹事、吉川宏

事務員窪田玲子 計33名

議題1. 会長あいさつ

- 松永会長より本会における審議内容
や、工学部75周年記念事業に関する今
後の指針について等を含めたあいさつ
がなされた。

議題2. 平成28年度同窓会運営報告

1) 平成28年度行事および会議報告

- 曾我庶務幹事より説明がなされた。平
成28年度は通常の会に加えて、進取の
精神支援基金に関する臨時会合や工学

部75周年記念事業に関する打ち合わせ
会が開催された。

2) 平成28年度本部会計決算報告

- 福原会計幹事より説明がなされた。
- 一般会計、岩崎基金、岸園基金の歳入、
歳出の詳細およびそれぞれの繰越金の
報告がなされた。

3) 会計監査報告

- 山本会計監事より平成29年6月12日の
会計監査の結果、帳簿、領収証など適
正に処理されていた旨の報告がなされ
た。

1)～3)まで質問事項はなく承認さ
れた。

4) 同窓会名簿第15号第4版発行報告

- 木村編集幹事より発行部数、発行費に
ついての報告がなされた。名簿閲覧に
関しての注意事項の説明がなされた。
- 本年度は地域コトづくりセンターから
の依頼で本部用を1冊提供した。また、
修正・梱包のために2名の学生バイト
を雇用した。バイト代は一般会計の予
備費を充てた。

5) 会報南桜風15号の発行報告

- 製本数、学内配布、返送数の詳細が説
明された。返送された会報はオープン
キャンパスにて配布した。
- 発行費について濱島印刷とサラトへの
代金の説明がなされた。

4)、5)について承認された。

議題3. 平成29年度同窓会運営計画

1) 平成29年度同窓会行事および会議報 告と計画

- 曾我庶務幹事より本年度の概要の説明
がなされた。今年度は3年毎の同窓会
総会懇親会が3月17日にパレスイン鹿
児島にて開催される。それに関して12
月に学内幹事会を開催する予定であ
る。
- 編集関係では75周年記念事業に向けて
の情報発信を会報において行う。座談
会の様子を掲載予定。
- 会計関係では1月に会費未納者に督促

状を出すことを計画として加えることとなった。

2) 平成29年度本部会計予算案

○一般会計の歳入、支出案の説明がなされた。今年度は総会に向けての支出が計上されている。また、75周年記念事業に向けても前年度増の予算を組み入れている。

○岩崎基金では鹿児島大学「進取の精神」支援基金へ300万円を寄付する計画である。岸園基金は岸園賞副賞と諸活動支援金に関する予算の計上となっている。

○曾我庶務幹事より岩崎基金より歳出予定の鹿児島大学「進取の精神」支援基金について、これまでの経緯（背景）についてと他学部の拠出状況説明がなされた。岩崎基金からの拠金とすることについては、鹿児島大学50周年記念事業の際に岩崎基金より50万円が拠出されていた前例に倣うものである。またこの300万円の金額は今までの利息であることが説明された。

2) について質問事項はなく承認なされた。

3) 会費納入状況および本部・部会への配分額

○会費納入状況の説明がなされた。7月現在で81%である。それに伴う前期の本部、部会への配分額の説明がなされた。

○部会ごとに納入の配分額と返金額の合計の説明がなされた。9月中旬に各部会の指定口座へ振り込む予定である。

3) について異議なしとして承認なされる。

4) 同窓会名簿第15号第5版発行計画

○印刷業者は(株)サラトへ依頼する。発行部数、予算、今後の作業の流れの説明がなされる。

○第15号は第6版まで継続されるがこれにより経費を控えている。次号は平成31年度に6年分の情報を精査し名簿第

16号を発行予定としている。ただし、現段階での見積額が高いので今後策を講じる必要がある。

5) 会報南桜風16号発行計画

○印刷業者、発行部数、見積もりの説明がなされた。

○75周年記念事業に向けての記事内容の掲載により、頁数が多くなる見込みである。

4)、5) について異議なしと認められる。

6) 工学部同窓会学生諸活動助成金

○今年度も1学科につき3万円の活動助成を行う。昨年度の実績の報告がなされた。

7) 工学部同窓会諸活動支援

○支援金についての詳細の説明がなされた。併せて昨年度の実績の報告がなされた。

○事業については工学部全体に波及していくようにできるだけ他学科の学生にも事前に知らせ希望者を募ることが望まれる。

8) 同窓会連合会関東支部総会

○3年毎の総会が平成29年9月24日開催される。松永同窓会会長と渡邊工学部長が出席予定。

9) 岩崎基金・岸園基金の規則作成

○工学部同窓会が有する基金の目的を明確にするための規則案の説明がなされた。

○岩崎基金は長期的な財政基盤を支える基金とし、有事が生じた際に充てるとしてきたものを明文化している。

○岸園基金は様々な同窓会事業に充てる基金とすることを明文化した。

○どちらの規則ともに今後見直すべき点がある場合は検討し変更していくものとする。附則の施行日は平成29年8月18日とする。年度末の総会にあげ最終承認を得ることとする。

9) について質問事項なしと認められる。

10) 周年事業準備基金の創設

○周年事業の直前ではなく先を見据えて準備をしていく目的の基金であることや事業例の説明がなされた。

○基金の資金は本部割当金の5%を充てる計画である。これは、同窓会の財政状況を踏まえて増減できるものとするが、毎年拡大幹事会の議を経て決定することとする。

○附則の施行日は平成29年8月18日とする。

○質問：山元和哉先生）これは75周年記念事業にかかわる事業に限定しての基金か？

回答：曾我庶務幹事）75周年に限定しているのではなく、100周年を見据えて備えていく考えである。

11) 工学部同窓会評議会、講演会、総会、懇親会

○平成30年3月17日開催。それに向けて12月に学内幹事会を執り行う予定である。資料にて今後の流れの説明がなされた。講演会は渡邊工学部長に工学部の現状や改革についてご講話いただく。

議題4. 各部会行事報告と計画

○機友会：福原稔庶務幹事、錦水会：淵田孝康庶務幹事、AOI会：塩屋晋一庶務幹事、南窓舎密会：吉留俊史庶務幹事、しらなみ会：審良善和庶務副幹事よりそれぞれの部会の平成28年度平成29年度の行事、会議の報告がなされた。

議題5. 役員改選について

○会長は引き続き松永洋文会長で決定。

○幹事については総会まで担当幹事の決定がなされる。錦水会より重井徳貴先生、南窓舎密会より山元和哉先生、しらなみ会より酒匂一成先生の3名の先生に依頼済み。会計監事については機友会より学内監事として福原稔先生、学外監事はAOI会が担当する。

議題6. 岸園賞

1) 被推薦者の紹介

○機友会より福井康好元工学部長、錦水会より今村彬元同窓会会長の推薦理由が述べられた。

2) 選考

○満場一致にて受賞が決定された。

議題7. その他

1) 工学部創立75周年記念事業に向けて一期成会の立ち上げについて—

○渡邊工学部長より現在の進捗状況をご説明いただく。

○役員構成と小委員会は工学研究・海外派遣助成制度検討小委員会も含め7つの委員会を立ち上げることなどの説明がなされた。

○松永同窓会会長より同窓会としての対応も含めての話がなされた。学内外の会員で組織を確立していく。

期成会として事務局長を含め事務局の立ち上げを考慮すべきと考えている。

2) 鹿児島大学「進取の精神」支援基金について

○会計報告にて説明した通りに実施する。

3) 名誉顧問について

○名誉役員職を設け今後の同窓会事業や75周年記念事業に際して助言いただけるように名誉顧問を置くことが提案され、会則の追加とともに検討事項として挙げられた。この件に関しては評議会での推薦後、総会での承認を得られたのち決定となる。

○名誉顧問への被推薦者として福井康好先生、今村彬前同窓会会長が推挙された。

4) 同窓会役員名簿

○変更がある際は事務局へ届けていただく。

以上

平成28年度会計報告

会計幹事 福原 稔（機械昭和56年卒）

平成27年度から本部会計幹事を担当させていただいております。宜しく願い申し上げます。同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金（9,571,108円）と学部の新入生、編入学生等が入学時に納入する同窓会終身会費（20,000円/人×471人=9,420,000円）です。これらの収入に会報広告代、預貯金利子を合わせて、歳入の合計金額は19,149,955円となりました。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い（4,660,000円）、本部運営関連経費（1,339,221円）がありました。そのほかには、会報15号の発行費（2,415,423円）、平成28年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿（15号第4版）の発行費（561,784円）、役員会・評議会等運営費（115,468円）、同窓会連合会分担金（100,000円）、本部役員出張費（240,000円）、大分県支部総会補助費（46,000円）、同窓会本部部屋の借り受け金と工学部事務助成費（197,760円）、学生の諸活動助成費（165,000円）、予備費等（10,641円）がありました。歳出の合計金額は9,851,297円でした。この結果、歳入から歳出を差し引いた9,298,658円を次年度へ繰り越すことになりました。

岩崎基金については、支出はなく、15,881,821円を次年度へ繰り越すことになりました。

岸園基金については、岸園賞記念品費（50,000円）、司会の開催経費（201,910円）、受賞者旅費（90,000円）、新設された諸活動支援費（347,740円）を支出し、28,530,486円を次年度へ繰り越すことになりました。

鹿児島大学同窓会連合会だより

平成29年4月8日（土）城山観光ホテルにて同窓会連合会総会、懇親会が開催されました。総会では平成28年の事業報告、会計報告がなされ承認されました。引き続き開催された懇親会はブラジルからも参加者があり、卒業生の活躍の場が国内のみならず世界に広がり根付いていることが感じられました。この懇親会は「卒業生の集い」となっております。毎年入学式直後の土曜日に実施となっております。学部の枠を超えた集いの場への皆様のご参加をお待ちしております。（工学部より総会10名、懇親会32名参加）



平成28年度一般会計決算

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

歳入総額	19,149,955
歳出総額	9,851,297
差引残高	9,298,658
通帳①: 郵貯通常貯金	3,843,454
通帳②: 郵貯定額貯金	5,085,483
現金	369,721
合計	9,298,658

(歳入)

項 目	H28予算額	H28決算額	差額(注2)	H28決算の備考
前年度繰越金	9,571,108	9,571,108		(注1)
本年度入学者納付金	9,200,000	7,900,000	-1,300,000	395名×2万
本年度外国人入学者納付金	80,000	80,000	0	4名×2万
本年度編入学者納付金	220,000	300,000	80,000	15名×2万
本年度博士課程入学者納付金	40,000	40,000	0	2名×2万
以前の入学者納付金	120,000	1,040,000	920,000	52名×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	20,000	60,000	40,000	3名×2万
小計	19,251,108	18,991,108	-260,000	
会報15号広告代	50,000	120,000	70,000	4社
雑費	25,530	28,030	2,500	以前の口座解約移し替え、懇親会費返金
預貯金利子	11,000	10,817	-183	郵貯: 通常39円、定額10,778円
合計	19,337,638	19,149,955	-187,683	

(注1) H28予算額の前年度繰越金9,571,108円=(H27歳入額) 19,444,843円-(H27歳出額) 9,873,735円

(歳出)

項 目	H28予算額	H28決算額	差額(注2)	H28決算の備考
(各部会割当金)				
機友会	1,120,000	1,400,000	280,000	98/98 外1、編2、前博1、前19
錦水会	1,820,000	1,430,000	-390,000	141/169外1、編10、博2、前編1、前8
AOI会	580,000	590,000	10,000	46/57 外1、編2、前外1、前10
南窓舎密会	900,000	660,000	-240,000	74/89 外1、前3
しらなみ会	480,000	500,000	20,000	36/47 編1、前12
南翔会	0	0	0	
未納学生の退学・除籍の部会への返金	80,000	80,000	0	機3、錦1、AOI 3、南窓1
小計	4,980,000	4,660,000	-320,000	
(本部運営関連)				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	1,020,000	985,863	-34,137	
通信費	50,000	56,391	6,391	通帳手数料含む
事務費	200,000	136,967	-63,033	
小計	1,430,000	1,339,221	-90,779	
同窓会総会・懇親会費				
旅費補助				
小計				
会報15号発行費	2,300,000	2,415,423	115,423	製本、発送代、不明者調査
追録名簿(15号第4版)発行費	650,000	561,784	-88,216	H28年度卒業生、修了生
役員会・評議会等運営費	150,000	115,468	-34,532	同窓会連合会懇親会費含む
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
本部役員出張旅費	240,000	240,000	0	大分県支部総会参加、関東合同同窓会参加
大分支部総会補助金	46,000	46,000	0	2,000円/人
不動産借り受け金	77,760	77,760	0	部屋代
工学部事務助成費	120,000	120,000	0	助成費
学生諸活動助成費	225,000	165,000	-60,000	各学科諸活動、工学部体育祭
小計	3,908,760	3,841,435	-67,325	
工学部創立75周年記念事業関係	20,000	641	-19,359	事前打ち合わせ会
小計	20,000	641	-19,359	
慶弔費	100,000	0	-100,000	
予備費	8,898,878	10,000	-8,888,878	追録名簿修正・梱包バイト学生2名
小計	8,998,878	10,000	-8,988,878	
合計	19,337,638	9,851,297	-9,486,341	

(注2) 差額はH28決算額-H28予算額

平成28年度の歳入決算額19,149,955円-平成28年度の歳出決算額9,851,297円=9,298,658円を平成29年度へ繰り越す。

平成28年度岩崎基金決算
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

歳入総額	15,881,821
歳出総額	0
差引残高	15,881,821

通帳①:UFJ定期預金	10,000,000
通帳②:UFJ普通預金	304,482
通帳③:みずほ定期預金	5,577,339
合計	15,881,821

(歳入)

項 目	H28予算額	H28決算額
前年度繰越金	15,878,422	15,878,422
UFJ定期預金利息	0	3,396
UFJ普通預金利息	0	3
みずほ定期預金利息	0	0
合計	15,878,422	15,881,821

(歳出)

項 目	H28予算額	H28決算額
合計	0	0

平成28年度の歳入決算額15,881,821円-平成28年度の歳出決算額0円＝15,881,821円を平成29年度へ繰り越す。

平成28年度岸園基金決算
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

歳入総額	29,220,136
歳出総額	689,650
差引残高	28,530,486

通帳①:鹿銀普通預金	3,524,192
通帳②:鹿銀定額預金	25,006,294
合計	28,530,486

(歳入)

項 目	H28予算額	H28決算額
前年度繰越金	29,214,458	29,214,458
鹿銀普通預金利息	0	381
鹿銀定額預金利息	0	5,297
合計	29,214,458	29,220,136

(歳出)

項 目	H28予算額	H28決算額
岸園賞記念品費	250,000	50,000
司(つかさ)会 開催経費	200,000	201,910
司(つかさ)会 岸園賞受賞者旅費	90,000	90,000
諸活動支援費	700,000	347,740
合計	1,240,000	689,650

平成28年度の歳入決算額29,220,136円-平成28年度の歳出決算額689,650円＝28,530,486円を平成29年度へ繰り越す。

つかさかい
司会の報告

第6回目の司会が8月18日に開催されました。この会の開催趣旨は、同窓生の交流を深める、教員同士のコミュニケーションを図る、南九州を中心にした産学官の連携を推進することとしており、今年度もその目的の通り、学生会員、教員、そして大学内外を問わず工学部の関係のある方々 58名にお集まりいただきました。

会では同窓会会長のあいさつの後、昨年度岸園賞を受賞された三宅征夫氏よりご自身が奉職されていた文部省国立教育研究所での活動についての話などの講演を賜りました。

引き続き渡邊工学部長による乾杯のご発声の後の懇親会では、多岐にわたる話が交わされる時間となり、今後に向けては、ますます充実した会となるようにとの期待が寄せられ、盛会のうちに閉会となりました。



鹿児島大学「進取の精神」支援基金への寄附の報告

工学部同窓会は2017年9月11日に鹿児島大学「進取の精神」支援基金へ寄附金額300万円を寄附いたしました。大学からの要請を受けたのち、寄附を行うことについて庶務幹事会や臨時会合を開催し審議を重ねてまいりました。最終的には2017年8月18日に開催されました拡大幹事会において承認され寄附するに至りました。

鹿児島大学はこの寄附金を基に特にグローバルな視点を有する地域人材育成のため大学の学生の海外派遣や留学生受入支援、若手研究者の育成、支援を進める目的として使用していく考えです。

鹿児島大学工学部同窓会
松永 洋文 様

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、鹿児島大学の教育研究についてご配慮いただき深謝いたしております。

さて、この度は、大学の鹿児島「進取の精神」支援基金の趣旨にご賛同いただき、過分なるご寄附を賜りまして誠にありがとうございます。

寄附金につきましては、基金の目的に沿って適正かつ有意義に使用させていただきます。ご存じのとおりでございます。

本来ならば、参上拝見のうえご挨拶申し上げるべきところではございますが、略儀ながら書面をもってお礼申し上げます。

平成二十九年九月十一日

国立大学法人鹿児島大学長 前田 芳 實

敬具

寄 附 金 領 収 書

鹿児島大学工学部同窓会
松永 洋文 様

872

寄附金額 ￥3,000,000 -

上記のとおり寄附金を受領しました。

2017 年 9 月 11 日

国立大学法人 鹿児島大学
前田 芳 實

上記の金額は、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号に基づき財務大臣が指定した寄附金（昭和40年4月30日大蔵省告示154号）に該当するものです。

(注) 1. この寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金又は法人税法上の金額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されています。

2. 上記の措置を受けるために、確定申告に際して、この領収書が必要となりますので、相当期間大切に保管してください。

稲盛和夫氏 立像建立

鹿児島大学学習交流プラザ「進取の気風広場」に工学部卒業生（応化昭30卒）の稲盛和夫氏（現京セラ株名誉会長）の立像が建立され、その記念式典（除幕式）が平成29年3月27日に行われました。式典には稲盛氏をはじめ、三反園鹿児島県知事、森鹿児島市長、江口正純同窓会連合会会長等約100人が出席しました。

これまで稲盛氏は、本学の経営協議委員や学長諮問会議委員として運営に協力するとともに工学部創立50周年記念事業に際し、科学技術を中心とした知的交流を促進するための「稲盛会館」の寄贈や人間力の総合的育成を目指す「稲盛アカデミー」の発足および「稲盛アカデミー棟」の建設支援、学生支援のために稲盛奨学金、また稲盛賞をはじめ工学部の学生に向けては工学部稲盛学生賞など教育研究の発展に多大な貢献をされています。

さらに先日は鹿児島大学の益々の発展と大学の躍進を願われて鹿児島大学に京セラの株式100万株のご寄附をされました。

稲盛氏の志や功績、訓えから学び自己を高める指針にしていきたいと考えます。



この立像は教育学部の池川 直 教授の制作によるものです
いけがわすなお



特別寄稿

工学部創立75周年記念事業についての座談会を開催！

同窓会本部編集幹事の木村です。これまでの会報でも紹介してきました「工学部創立75周年記念事業」について、我々同窓会本部役員と渡邊陸工学部長および武若耕司実行委員長を交えて座談会を開催しました。平成32年に迎える工学部創立75周年に向け、工学部と同窓会が協力し、拠金を含め具体的に何を実施すべきか？ この座談会を通じて、その方向性が見えてきたかと思います。全てを掲載すると膨大なページを要しますので、ここでは、特に同窓生の皆様向けの内容に絞って、紹介したいと思います。(紙面の都合上、さらに、抜粋しています。)

開催日時：平成29年6月9日 18:30～22:00

開催場所：ジェイドガーデンパレス

出席者：渡邊陸工学部長、武若耕司実行委員長、松永洋文工学部同窓会会長、曾我和弘本部庶務幹事、福原稔本部会計監事、木村至伸本部編集幹事、窪田玲子本部事務員

拠金の集め方とその使途

木村：平成32年（2020年）に迎える工学部創立75周年記念事業に向けての座談会ということで、どのようなことをしていかなければならないのか等、工学部と同窓会とで意見交換できればと思います。そこで会報に掲載しました武若先生の資料をもとに話していきたいと思います。図にありますように工学部創立75周年記念事業委員会と工学部創立75周年記念事業期成会が工学部と同窓会の関係を表しているのではないかと思います。

武若：一番大きな議題となると思いますが、今回の75周年にあたってどのような形で費用が発生するかについて50周年記念事業を参考とし、岩崎国際交流基金と研究交流基金の運用と助成状況について、応用化学科の鎌田薩男先生がおまとめになられた資料がありましたので、これを参考までに配布させていただきました。

木村：後程これを見ながら意見交換ができればと思います。渡邊先生からの資料はどのようなも



のでしょうか。

渡邊：鹿児島大学70周年実行委員会が立ち上がったのでその資料を参考までに持ってきました。大学は1949年をスタートにしており工学部の75周年の1年前2019年に実施を計画しています。学長、副学長、理事を実施委員にし、実際はこのメンバーに加えて、研究担当理事の高松理事を副委員長としています。記念講演会を稲盛会館で行うこと、また奄美市でも考えており、記念事業と70年史の刊行、記念式典を考えているようです。部局史でいうとその1年後に75周年記念事業があるので、武若先生の資料に記念誌発行小委員会とあるがその記念誌に部局史を入れるのではないかと思います。それらを行う上での経費の話となると、工学部の教職員にもお願いをと考えています。

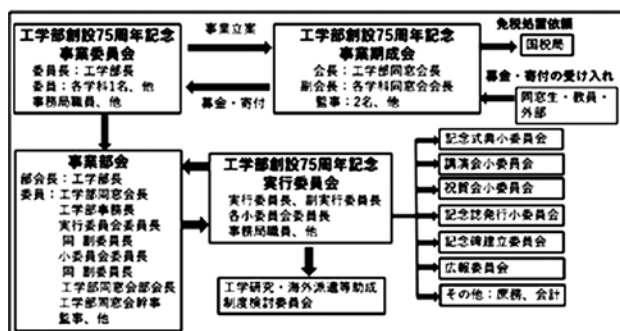


図 記念事業実施のための組織体系

(中略)

武若：50周年記念事業の際に岩崎基金として1億円をいただいた。研究交流基金は同窓会にも協力していただき5,000万円集めたものであるが、切り崩しをしていて既にほとんどない状態である。この組織体系を作り、実行委員会の中に小委員会を設置する。50周年事業記念では、そこが記念式典、講演会、祝賀会を行い、その他には稲盛会館の建立もあったが、今回



上物は必要ないかと思いがあ。しかし、寄附をしていただいた方にはどのような形で感謝を示すか、何か残るものを考えなければならないと考えている。そのような状況の中で実は工学研究・海外派遣等助成制度検討委員会について、研究交流基金が先細りしていく中であって、今回の目玉として寄付金を精力的に集めてこれからの工学部の発展に寄与してもらえないかと思っている。そのような意味もあり別枠とした。同窓会としては記念事業ですので会長としても皆さんの心に残るものを大事にしたいと考えていらっしゃるかもしれませんが。

松永：資金が潤沢に集まるか。しかも現在大学も集めているので、気になるところ。同窓会としては資金集めをしなければならないが、一工夫は必要なところ。工学部同窓会は部会がしっかりしているので、そちらの協力も借りたい。現時点では、同窓会の会員へは記念誌的なものでお返しをすればと思っている。大学で使えるお金とし

ていいのではと。ソフト的なものをメインに活動するしかないかと思っている。

武若：記念誌は残るものだが、助成は形が残らない。明確な形で何か残るようにする必要があるだろうか。

渡邊：寄付してくださった個々人の名前が残るように銘板を作ればよいのでは。できるだけ多くの方の名前を残していけばよいのでは。一人の方の名前を残すより多くの方の名前を残せたら。

武若：先生方や学生に支援をするときに、鹿児島の期待する企業や業界、同窓生に研究成果なり技術を目に見えるように反映できる状況ができれば、皆さんも納得がいくかも。鹿児島大学でこのような研究をしているとアピールしていく。

松永：銘板があり多くの方の名前が残ると喜ばれるかも。全体として工学部主体の組織があって、その対面に同窓会があり、実行委員会がある形ですね。

(中略)

期成会について

木村：期成会はどのような位置づけになるのですか。

武若：同窓会としてどのようなシェアをしていただけるか考えていただくのが期成会だと思う。まずは同窓会がどのような支援をしていただけるか。我々が要望したことでできるか、できないか。できるとしたらどのような形か、など。

松永：事業委員会で計画されるので、事業委員会と同窓会としての協力要請をしてもらい、それに対してこちらがどのように対応していくか、であろう。期成会は大学の外の方ばかりだと難しいので、学内外の同窓生の方にうまく混ざってもらわないと。

武若：各部会の同窓会の会長に入っていただくし、庶務幹事などの大学の先生方に入っていただくような期成会となると思う。

渡邊：事業委員会と事業期成会の委員が重複するのは問題ないことですか。

武若：事業部会の中には各部会の会長や幹事の先生にも入っていただいているので共同体制の状況です。もっと外部の方がいればその意見も聞けますし。同窓会会長は大学内部の方とは限っていませんよね。

松永：南窓舎密会の染川先生は学内にいらっしゃった会長であるが、ほかは学外の会長であるので外部の意見を吸い上げることができるのでは。

武若：事業として50周年はかなり大々的に行ったが、今回は時勢もあるし、寄付金の集まり具合も考えて、事業を絞り込んで行う必要があるのでは。

渡邊：大学も1年前に記念事業を行うので、そのあとの事業となると厳しい面もあるかもしれない。

武若：寄付金を集める時期も考慮しなければならないし、事業も絞り込む必要があるかも。
記念式典、講演会、祝賀会は基本的なところであろうが。

松永：記念事業として拠金をいただくことを考えるとその3つはしておかないと。記念誌など記録として残るものは必要となる。

(中略)

大学の手がける「進取の精神支援基金」および70周年記念事業との違い

木村：進取の精神支援基金と大学の70周年記念事業は別のもの？

松永：大学は進取の精神支援基金も集めながら、70周年記念事業でも集めようとしているのは。進取の精神支援基金が始まったので、工学部の75周年記念事業があるとわかった段階から会報への掲載も含め、同窓生にも少しずつ話はしている。



武若：大学は大きいところを中心に寄附金をお願いしていると思う。工学部としては個人・個々のところに周知しお願いをして少しずつでも拠金をお願いする形をとっては？

渡邊：その場合やはり寄附金をくださった方の名前を残すようにしなければ。

松永：工学部は起業している方が多いので、大学から言われるとつらいところ。工学部は部会のネットワークを活かして電気系、建築系などに声をかけられるかも。大学にすべてを吸い取られないように工夫していかななくては。同窓会としては新しい役員が決まるので、引継ぎを兼ねて期成会の準備をしなければ。

武若：工学部期成会として体系は示してあるが、この通りでなくても変わっていくのもあってよいと思う。同窓会としてお金が集めやすく事業として成り立つものがあれば提案してもらえればよいと思う。

松永：基本、私のイメージは同窓会ではなく工学部75周年なので事業委員会が立案し、期成会に投げかけ、その中で同窓会としてできることを考えていく形であると思う。寄付集めとなると同窓会が動かなければならないことは事実であるが集まった拠金をどのように使うかも含め、あくまでも冠は工学部で行うべきであると考えている。

武若：工学研究・海外派遣等助成制度検討委員会を別枠にしているように、ここに一番寄付金が集まるようにしてほしい。会員には記念式典など事業をしなければならないという考えがあるだろうが、ここにお金が集まるようにしてほしい。

松永：それらはきちんと意向を趣意書の中に入れるべきメインのテーマだろう。

武若：同窓会として縮小でき得る部分はそうしてもらい、できる限り工学研究・海外派遣等助成に回してもらえる状況を構築してもらいたい。景気が良いわけではないし、大学も集めているので、厳しい状況であるなかで、メインとして示したい。

松永：同窓会として主催することは基本的に祝賀会だけであると考えている。これはお金を出し



たりすることも含めて、同窓会が主催の形になる。あとの事業は工学部が主体となると考えている。その他については工学部が主として考えてもらえたら。工学部同窓会としては祝賀会で少しでも支出を抑えるように考える。講演会にしても同窓会ではできないことなので。



武若：そのように言うていただければ我々としても
融通を利かせながら助成制度を考えていくことができる。

松永：寄付金の使い方は使いやすいようにと考えている。

武若：祝賀会と記念誌は同窓会が主体ではないかと考えている。

(中略)

周年事業準備基金の創設について

松永：進取の精神支援基金をした場合に、お金を出す方はもう出したとなる。なぜ2回もお金を払わないといけないかになっていく。大学に対してより学部に対する方が愛着はあると思う。同窓生が支援し対価をもらうのは少し違うとは思いますが、そこに何かがあるとまた違ってくるかもしれない。

曾我：基金の集め方として1度集めて25年待たせて集めるのではなく、例えば経常的な財源を何かしらの資金として確保するシステムを作っておけば良いのでは。使った分の100%は補えないとしても、そのうちの数%位を年度ごとに補填していけばどうだろうか。例えば同窓会の会費の数%を年度毎に補填していけば。君たちにもメリットがあると学生にもきちんと話をし、当て込んでいき資金を廃らせないようにすればよいのでは。君たちが恩恵を受けたことを次の後輩も受けていくと説明し回転させていく。途切れていくのが今までのやり方である。そうではなく幾分かは経常的に収入源があるシステムを作っていたほうが良いのでは。会費のうちいくらかを財源に充てるかなどは議論の余地があるし、反対意見もあるかもしれないが、ただ彼らにもメリットはある。

渡邊：(前段削除) 寄付金の集め方としてOBを中心とかではなく、鹿児島大学と直接関係ない人がこれはいけると考えた際にお金を入れられるようにすれば。それは100円かもしれないが、広がると結果的に大きくなる。

武若：今の話は学科単位ではなく大学として。

曾我：私が考えている財源は工学部同窓会費です。入学して同窓会費を2万円支払ってもらうが、半分は学科に、半部は本部が徴収するが、そのうちの数%は経常的に補填し続ける。工学部同窓会で了解を得てそのようなシステム作りをしておいて、100周年の際に慌てないように使えるようにすればどうだろうか。その歯車を回せば、25年経った時に現学部長や実行委員長の武若先生のように労力を使わなくてもよい

と思います。今回は間に合わないかもしれないが、これを機にシステム作りをすれば。我々が入学生を受け入れる間続いていくように。

武若：集めるのはそれぞれの部会ではなく本部でやるのですか。

木村：学生が2万払ったうち本部は先に入学者分をとり、残った分は部会へ回すようになっている。本部としては入学者分が必ず入る。

曾我：我々はそこが強みで安定した運営ができる。そのうちの数%を充てる。入学するときに学生に説明すると同時に、親御さんにも見せる。長い目で見たとき、今のシステムは変えないけれど、そのうちの数%工学部の発展ために、彼らのために使うのだと説明しておき回転するとしておく。値上げすることではない。今我々は何ができるかと考えたときに経常的なシステムを作っていくということ。

武若：入学時であれば、親御さんもやってくれるから、入学時だと卒業時に比べて良いかも。

曾我：切れた糸をあとでつなぐより最初につないでおくとういことも。10%でもよいし、コンセプトは財源を確保できるアイディアです。そこをこのメンバーで作れたら。

武若：それはいいですね。

木村：今の学生は同窓会員としての意識が全くないと感じる。彼らに毎年年度初めに会報を配ってはいるが、彼らにメリットがあまりないのでは。

福原：機友会は入学時にそれを行っている。

木村：しらなみ会は研究助成事業を行っており、学生からも「しらなみ会」という名前が挙がってくるようになった。同窓会としても意識づける意味でも良いかも。

渡邊：錦水会はウェルカムパーティをしている。曾我先生の提案に合わせてフィードバックしていくとよい。

曾我：もう一つのメリットは彼らが4年、6年在学するのでその間にお返しができる。一回散らばってからお返しするのは難しい。100%できないかもしれない。しかし在学中であればお返しできるし、彼らに何かの事業があって海外派遣してくれるとかがあれば、入っていてよかったとなるかも。絶えずローテンションできるシステムを本年度中にできれば。大学院へ行こうと考える学生もいるかも。

木村：そのようなシステムができると良いかもしれない。

曾我：今申し上げたのは同窓会の課題である。合意をとらなければ実施できない。(注1)

(中略)

終わりに

松永：今日はいろいろな考えが出たけれど、それぞれの事業委員会、期成会で決めていかなければ。

武若：この事業の最大のところは、事業を行うにしてもそのお金をどのように集めるかとなる。



話をしてもらったのはありがたかった。

木村：企画者としては75周年ということで集ってもらったが、工学部として、同窓会としての話が出せたのでは。いままで機会がなかったこともあるが、共通認識ができた。これを第1歩として各部長と、その後につなげていけるいいスタートになったかと。

これから工学部、同窓会の立場はありますがいろいろ意見を交えながら進めていけたらと思います。ありがとうございました。



（注１）平成29年８月18日開催の拡大幹事会において「周年事業準備基金規則（案）」が審議され承認を得られた。

工学部同窓会諸活動支援

平成28年度

部 署：機友会

企 画：平成28年度 学生と若手技術者との交流会

（第1部：特別講演、第2部：パネルディスカッション、第3部：懇親会）

活 動 日：平成29年3月9日

活動場所：稲盛会館（146名）、教育学部食堂（61名）

企画内容：主に学部3年生および博士前期課程1年生を対象に、特別講演（2名）およびパネルディスカッション（同窓生の若手技術者5名）を通じて、これから就職活動をしていく学生へ就職活動の支援を行う。懇親会でも、さらに就職に関する詳細な情報交換できる場を提供する。

成果報告：第1部では学内就職支援室の榎木氏および機友会関東支部北辰会の大宮司氏にご講演いただき、第2部では機友会の若手機械技術者をパネリストとしてお招きし、熊澤先生の司会進行の下、パネルディスカッションを実施した。第3部では、教育学部食堂において懇親会を行った。今回の開催により、これから就職していく学生へ就職支援を行うとともに、就職に関する詳細な情報交換できる場を提供できた。講演会、パネルディスカッションおよび懇親会に参加した学生は、先輩の機械技術者としての貴重な経験談を情報収集することにより、今後就職活動を有意義に実施できることが期待できる。かみたにしゅんぺい（上谷 俊 平 教授）



平成29年度

部 署：南窓舎密会

企画：講演会「先輩の話を聞いてみよう」（共催 環境化学プロセス工学科、化学生命工学科、南窓舎密会）、および演者・学生等交流会

活動日：平成29年10月14日

活動場所：鹿児島大学 稲盛会館（101名）、ジェイドガーデンパレス（41名）

企画内容：講演会「先輩の話を聞いてみよう」は、大学を出て10年以上経過した先輩方がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等、諸々の話を現役学生を含む同窓生に聞いてもらおうという企画で、2学科（環境化学プロセス工学科、化学生命工学科）、および南窓舎密会の共催である。講演に興味を持った学生と演者等とに、より詳細な情報交換をしてもらうことを目的とするものである。

成果報告：講演会「先輩の話を聞いてみよう」では2件の講演があり、101名の参加があった。仕事内容の紹介、エピソード、仕事での心構え、企業が望む学生像、等の話があり、現役学生を含む同窓生・教員等は熱心に聞き入っていた。いずれも就職後あるいは就活に生かされるものであった。演者においても、自らの仕事や会社を紹介することができ、有用な情報交換や交流が行われた。

講演1.「最先端ガラス材料の開発について」

甲原 好浩 氏（平成20年 博士後期修了、YEJガラス株式会社、技術部
ニューガラスマテリアル開発課）14：35－15：25

講演2.「55歳で起業して」

前畑 康三 氏（昭和37年 応化卒業、前畑産業株式会社&ミハラカーボン株式会社 代表取締役社長）15：30－16：20

演者・学生等交流会（18：20－20：00）では、41名の参加があり、講演に興味を持った学生、演者、その他の同窓生・教員の間で交流が行われ、より詳細な情報交換の場となっていた。



部 署：AOI会

企 画：AOI会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

活 動 日：平成29年9月30日

活動場所：鹿児島大学 稲盛会館（180名）

企画内容：第一線で活躍されている卒業生3名をお迎えし、社会的経験、人生観等後輩へ伝えたい事を講演して頂くとともに、在学生と先輩との情報交換を目的とする。

成果報告：社会の最前線で活躍されている本学科の卒業生を招き、「後輩へ伝えたい事」というテーマで講演して頂いた。

学生達にとって、卒業生による講演は親近感が湧くと共にリアルな未来像が想像でき、大変興味深く拝聴しているようであった。また、今回講演頂いた3名の先輩方の分野は多岐にわたっており、社会的経験やそこに培われた仕事観や人生観を語って頂き、更に学生時代に行っておくべき事柄についても助言頂き、学生たちにとって、非常に有意義な指針を得る機会となった。

また、教員にとっても、社会の現状やニーズ等の情報を得る場を持つ機会となった。



部 署：錦水会

企 画：学生向け講演会「きばっど会」

活 動 日：平成29年10月28日

活動場所：建築学科棟01号教室（160名）

企画内容：主に学部3年生と修士1年生を対象とした、卒業生による講演会である。講師として卒業生2名に依頼し、就職や進路を控えた学生に対して、社会人としての心構え、学生時代に取り組んでおくべき事項、社会に出てからの経験などについての話をしてもらう。他学年や他学科の聴講も可能である。

成果報告：講師として卒業生2名を招き、就職活動を控えた学部3年生および修士1年生を主な対象として、学生向け講演会「きばっど会」を開催した。講師は昭和47年電気工学科卒業で現在は(株)GXコーポレーション顧問の横瀬義和氏、平成13年生体工学科卒業で現在は(株)リクシルの渡光次郎氏に依頼した。横瀬氏は自分の経験を踏まえて将来を見据えた人生設計などの話を、渡氏は若い視点から社会人生活と会社の関係などの講演をし、いずれも学生にとって大変有意義で実り多いものとなった。講演会終了後は懇親会も開催され、学生には補助を出して招待し、講師と学生および卒業生との間の懇親を深めることができた。

本支援金制度についての意見：本支援制度は、今回、錦水会が学生に対する講演会を開催する上で非常に役に立ちました。今後も同窓会部会の活動にご支援いただきたく、本支援制度を継続して実施していただきたいと思います。



部 署：理工学研究科

企 画：第2回理工学研究科グローバル人材シンポジウム
GOES海外研修交流会

活 動 日：平成29年11月21日

活動場所：工学部共通棟101教室（工学部関係者14名）

企画内容：平成29年度実施の大学院理工系イノベーション海外研修に参加した学生と平成30年度に実施する大学院理工系イノベーション海外研修に関心のある学生や留学に興味のある学生との交流会を行う。この会では、海外での研修や留学に関心のある学生達が、海外研修を通して活躍した学生達の体験談や助言を聞き、海外で活動する意義を深める。

成果報告：教員、今年度海外研修に参加した学生と次年度の海外研修の参加希望の学生、および海外留学に興味のある学生とのグループによる意見交換や情報共有が図れた。

交流会を通じて出席した学生達は、海外研修への参加やグローバルに活動することへの意欲寒気ができた。



部 署：しらなみ会

企 画：若手技術者による建設コンサルタント業の「中身」と海洋土木工学科で学んだことの「使い道」に関する説明会

活 動 日：平成30年2月2日

活動場所：鹿児島大学工学部（52名）

企画内容：本企画は、土木工学の重要性と調査・建設コンサル魅力をアピールすることを目的として、建設コンサルタント会社に勤務する本学科卒業の若手技術者（入社3、4年）が共同となり、①社会基盤を整備するまでの一連の流れ（計画・検討、調査分析、設計、施工、維持管理）を説明し、②調査・建設コンサル業の「中身」と、それに対する大学講義の「使い道」を具体的に説明する。

成果報告：本企画を実施することにより、学生会員は社会基盤施設の整備の進め方や建設業と建設コンサルタントの違い、建設コンサルタントの業務内容、建設コンサルタントで必要とされるスキル、技能、大学の講義と仕事内容のつながり等に関する有益な情報を得ることが出来た。



工学部同窓会学生諸活動助成金報告

平成28年度

学 科：機械工学科

企 画：平成28年度機械工学科卒業・機械工学専攻修了記念パーティー

活 動 日：平成29年3月23日

活動場所：ジェイドガーデンパレス（140名）

事業報告：卒業・修了記念パーティーを通じて、卒業生・修了生の学生生活最後の楽しい時間を共有することができた。また、お世話になった先生方や事務の方への感謝の意を伝える場にもなった。学業で最も優秀であった学生の表彰や各研究室の紹介を行い、これまで取り組んできた学業を振り返ることができた。本事業によって、皆の思い出に残るような年度末最後のイベントとなった。

みやうちだい ち
(宮内大地)



平成29年度

学 科：環境化学プロセス工学科

企 画：環境化学プロセス工学科・化学生命工学科ソフトボール大会

活 動 日：平成29年6月4日

活動場所：鹿児島大学教育学部グラウンド（60名）

事業報告：今回のソフトボール大会は、雨も降ることなく無事に開催することができました。昨年のソフトボール大会が雨で中止となったこともあり、今年のソフトボール大会は白熱した試合となりました。問題なく試合を進めることができたのも、みんなの協力があったからだと思います。助成金につきましては、景品や道具の準備などの準備をする上で非常に助かりました。ありがとうございました。

きくち かつ き
(菊池克城)



学 科：建築学科

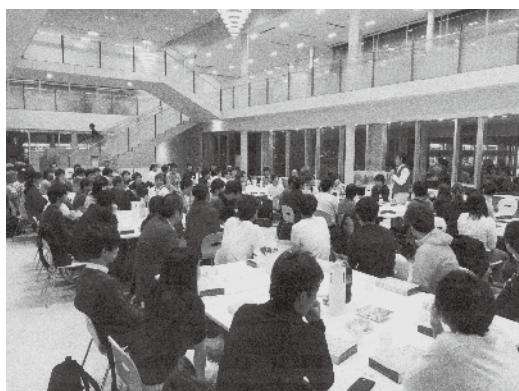
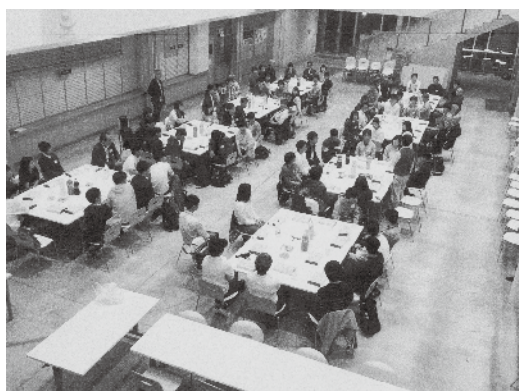
企 画：建築学科1年生と教員の懇親会

活 動 日：平成29年10月24日

活動場所：学習交流プラザ（64名）

事業報告：建築学科1年生と教員、TA、また1年生同士が親睦を深めた会になりました。

1年生は先生方から建築に対する心構えや将来に向けてのアドバイス等をいただき、それをしっかり受け止めていました。また、1年生同士がお互いを知ることができた良い機会となりました。このような機会に本助成金がでることは大変ありがたいです。（本山翔伍^{もとやましようご}）



学 科：電気電子工学科

企 画：第48回電気電子工学科バドミントン大会

活 動 日：平成29年11月4日

活動場所：教育学部 第2体育館（46名）

事業報告：スポーツを通して、先生方や学生同士で交流を深めることができ良い刺激となりました。助成金をいただいたおかげで、備品を揃えることができ、快適な環

境で活動することができました。ありがとうございました。(石井崇貴^{いしいたかき})



学 科：化学生命工学科

企 画：冬季環境化学プロセス・化学生命ソフトボール大会

活 動 日：平成29年12月3日

活動場所：鹿児島大学教育学部グラウンド（60名）

事業報告：五つのチームが出場しました。初めにリーグ戦を行い、順位付けをし、決勝トーナメントを行いました。参加者全員がソフトボールに一所懸命に取り組み、とても良いソフトボール大会になりました。特に決勝戦は白熱した試合となりました。参加者全員の協力のおかげで素晴らしソフトボール大会になりました。助成金は配布する飲料や優勝賞品、大会運営費等に使用させていただきました。豪華な優勝賞品に優勝したチームも喜んでおりました。ありがとうございました。(寺田修達^{てらだしゅうたつ})



訃 報

謹んで哀悼の意を表します。

名誉教授（電子工学科）	山 口 純 一 先生	平成28年10月	ご逝去
教 授（機械工学科）	末 永 勝 郎 先生	平成29年 8 月	ご逝去
教 授（応用化学工学科）	高 橋 武 重 先生	平成29年 8 月	ご逝去
教 授（機械工学科）	若 原 稔 先生	平成29年12月	ご逝去

鹿児島大学工学部同窓会会則

(名称)

第1条 本会は鹿児島大学工学部同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦と母校の発展をはかり、主として科学技術を通じて社会に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会員名簿の発行
- 2、会報の発行
- 3、工学部助成
- 4、その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- 1、正 会 員：鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部卒業生および在学生、ならびに同専攻科および同大学院工学研究科および理工学研究科（工学系）修了生および在学生
- 2、特別会員：鹿児島大学工学部教官・教員、ならびに鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部の教官・教員であったもの、その他評議会で承認されたもの
- 3、名誉会員：総会の決議により推薦されたもの

第5条 本会は本部を鹿児島大学工学部内におく。

第6条 本会に学科別会員をもって組織された各部会をおく。部会の組織については細則にこれを定める。

(役員)

第7条 本会には次の役員をおく。

本部役員として会長1名、副会長5名、顧問1名、評議員 各部会毎に10名以内、幹事3名、監事2名をおく。評議会が必要と認めた場合、名誉役員として名誉顧問を若干名おくことができる。

第8条 本部役員および名誉役員の任期は3年とする。ただし会長は2期までとし、その他の役員は再任をさまたげない。

第9条 顧問は工学部長とし、評議員は各部会より推薦する。会長、副会長、幹事、監事は評議会において選出する。名誉顧問は評議会において推薦する。

(運営)

第10条 会長は本会を代表し会務を総理し、評議会の議長となりその決議を執行する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。本部役員は評議会を構成し会務を審議する。幹事は会務を処理する。監事は会務全般の監査を行う。名誉顧問は評議会の諮問に応じ、会務の執行に対して意見を述べること

ができる。

第11条 会長は3年毎に総会を開き会務を報告する。ただし収支決算は毎年各部会に報告する。

(会計)

第12条 会員は終身会費を納付しなければならない。ただし、特別会員および名誉会員はこの限りではない。

第13条 本会の運営に必要な経費は終身会費および雑収入をもってこれに充てる。

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(会則変更)

第15条 本会の会則の変更は評議員総数の2/3以上の賛成を得た議案に対し、総会に諮ってこれを改正する。

(附則)

本会則は平成18年3月18日より施行する。

細則

(事業)

第1条 会員名簿の発行は3年ごととし、会報は原則として年1回発行する。
会報は、卒業生に関しては会費納入者のみに配布する。

(役員)

第2条 幹事は庶務、会計および編集等を分担する。

(部会)

第3条 部会は会員の希望により2学科以上をもって部会を組織することもできる。

第4条 部会は本会則の趣旨に沿ってそれぞれの会則を定めて運営し、その状況を適宜会長に報告する。

第5条 部会は必要に応じて各地区に部会支部をおく。ただし、支部会員の希望により部会支部は合同して同窓会支部を組織することができる。

(会計)

第6条 終身会費は入学時に20,000円とする。

第7条 会費の一部は入学定員により各部会に按分され、部会独自の事業を行う。

昭和29年3月1日制定（鹿児島工学会）

昭和33年3月5日改正（鹿児島大学工学部同窓会規約）

昭和41年8月28日改正（鹿児島大学工学部同窓会会則）

昭和48年9月1日改正

平成9年2月21日改正

平成18年3月18日改正

平成27年3月7日改正

平成29年8月18日改正

編集後記

本部編集幹事・木村 至伸

ここに工学部同窓会会報“南桜風”第16号をお届けいたします。

会報第16号では、各学科・専攻の近況や工学部同窓会を構成する各部会の活動状況紹介に加えて、特別寄稿を掲載しております。これは、平成32年に迎える工学部設立75周年記念事業について、我々同窓会本部役員と工学部長および実行委員長とで意見交換した内容です。是非、ご一読いただき、工学部設立75周年記念事業に向けた活動へのご理解を賜れば幸いに存じます。

さて、私事になりますが、平成27年度より同窓会本部編集幹事を担当させていただきました。早いもので今年度が最終年です。この間、会報第14、15、16号を発行することができました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと深く感謝しております。本部役員として多くの同窓生とお会いする機会があり、部会の枠にとらわれない、工学部同窓会としての“絆”を感じることができました。これを次期本部役員に引き継げればと思います。

最後に、同窓生皆様のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。3年間、ありがとうございました。

機友会編集幹事・定松 直

初めての編集幹事で不慣れな点大変多く段取りが悪かったに関わらず、記事を執筆いただきました皆様のお陰で無事入稿することが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年度はスムーズに会報作成が出来るよう頑張ります。来年は機友会総会がございませう。ホームページ (<http://www.mech.kagoshima-u.ac.jp/~kiyukai/index.htm>) にて情報発信して参りますのでご覧いただけますと幸いです。

錦水会学内編集幹事・重井 徳貴

錦水会の部会だよりでは、支部・学内の行事、学生の表彰について紹介しました。記事の執筆等でご協力いただきました本部・支部の幹事の皆様方に感謝申し上げます。

今年度をもって、錦水会の学内編集幹事を交代することになりましたが、引き続き工学部同窓会で大変お世話になることと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

皆様からのご協力をいただき、AOI会の報告を無事に作成することができました。誌面作成に当たりご協力頂いた皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。今年度の会報から、各支部の報告を担当幹事の皆様にご担当いただきました。会員の皆様による直接の声により、この会報を作成できればと思っております。また、原稿のお願いを通して本学科OB、OGの皆様とご縁を頂けましたこと、改めて感謝申し上げます。ぜひ、「あーおい、飲もうか」とお声かけいただけますと幸いです。次号へのご協力も、どうぞよろしくお願い致します。

南窓舎密会編集幹事・中島 常憲

南窓舎密会では、現役会員の各行事への参加状況が芳しくないという問題に直面しており、今後の同窓会活動において活性化など議論が必要であると感じております。卒業生の皆様方よりお知恵を拝借しつつ、南窓舎密会を盛り上げていきたいと思っております。最後に、原稿等の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

しらなみ会学内編集幹事・小池 賢太郎

会報を作成するにあたり、しらなみ会本部および各支部の担当者の皆さま、OB・OGの方々には多忙な時期に原稿を執筆頂き、ありがとうございました。

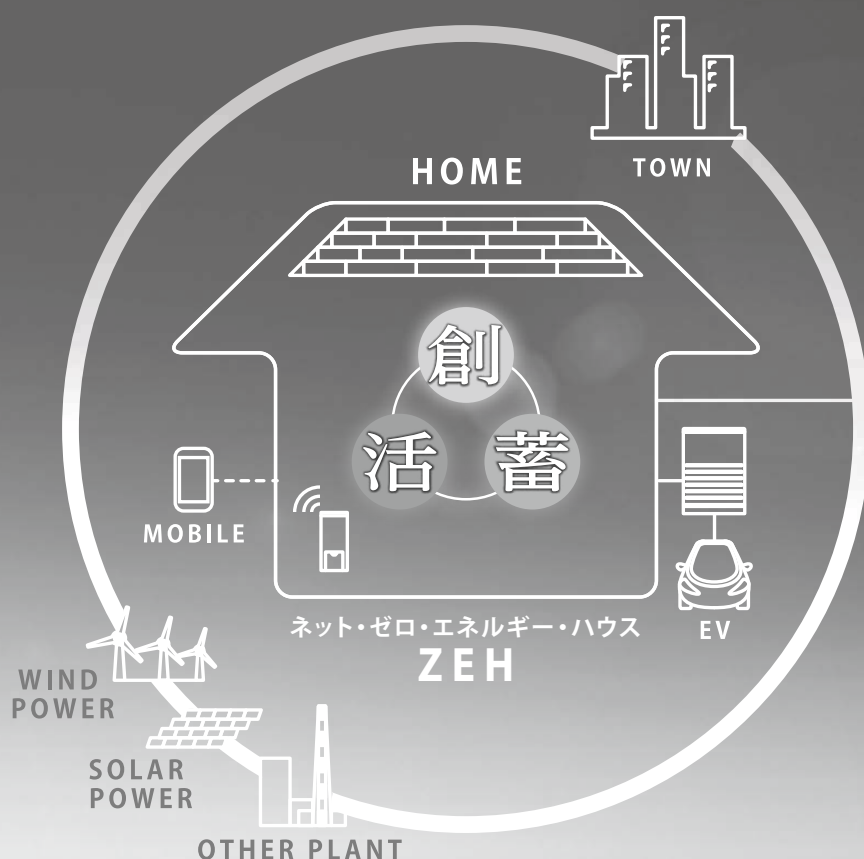
しらなみ会での活動報告を誰よりもいち早く仕入れ皆様へ発信する、この編集幹事の仕事にも大変やりがいを感じております。

さて、しらなみ会では、本会報の発行のみならず、しらなみ会のホームページ運用しておりますので、本部・支部の活動報告、イベント情報などの掲載情報などございましたら、随時ご連絡ください。よろしくお願い致します。

THE NEW VALUE FRONTIER



「わが家電力」で暮らせる毎日へ。



京セラは、技術力でエネルギーを変える。

KYOCERA
THINKING
ENERGY

Smile for you

— 総合建設業 —



株式 和田組

和田 正遠 (建築 昭和 25 年卒)

大分 本社

〒874-0919

大分県別府市石垣東 10 丁目 3 番 40 号

TEL 0977-25-1221 FAX 0977-21-3825

東京 支店

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 4 丁目 21 番 16 号新宿ニューハウジング 1F

TEL 03-6276-8948 FAX 03-6276-8958

URL : <http://www.wadagumi.com>

E-mail : wadagumi@wadagumi.com



株式会社 ハマテックス

鹿児島県知事許可(特-26)第1771号



地域と人を塗装でつなぐ

代表取締役 濱園 誠 (海士 平成13年卒)

〒891-0131 鹿児島市谷山港1丁目3-34

TEL : 099-261-8400/FAX : 099-262-1022

Eメール : contact@hamts.jp

HP : <http://hamts.jp>

- 建築塗装工事
- 防水工事
- 外壁調査・改修工事
- 鋼構造物塗装工事
- コンクリート構造物改修工事



Faculty of engineering
Kagoshima university